

科目コード	5100030			時間数	30		
授業科目名	法律を考えるA - 法学 -	開講学期等	1期	時間割	1期 金3・4		
授業科目名英字	Jurisprudence A : Outline of Civil Law						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1・2年				
内容的に密接に関係する授業科目	日本国憲法 B・C		履修する際に前提とする授業科目				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
西台 満	政策科学	3-328	018-889-2659				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	(火) 4:10~5:40		【場所】	西台研究室(3-328)		
	授業の目的			授業の到達目標			
<p>まず一般教育(General Education=本学では教養基礎と呼んでいる)の目的としては、生まれてから現在まで、親や学校の教師、本・新聞・テレビなどから沢山の知識・考えを受け取り、頭にkeepしているわけだが、大学に入ったのをいっきかけにして、それらを一旦全部 clear する。それから、自分が正しいと納得できるものだけを一つづつ、もう一回頭に収納してゆく。この作業を「自我の確立」と言う。</p>			<p>自我を確立するためには、これまで「当然」「当たり前」と思って全然疑わなかったことでも、改めて「本当だろうか?」と疑うこと、即ち批判力が必要になってくる。本講では主に民法を題材として、多くの人が正しいと思っていることについて、「実はそうではないんだ」という例を示す。</p>				
カリキュラム上の位置付け	最も「一般教育らしい」科目である。これを受けた人と受けない人とは、専門に入ってから大きな差が出てくると思われる。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<ol style="list-style-type: none"> 1 高校までの「勉強」と、大学でする「学問」との違い 2 時代の流れ 工業化社会から情報化時代へ 3 法的安定性と具体的妥当性 4 物権と債権 5 物権の排他性と公示制度 6 動産の公示 占有 7 不動産の公示 登記 8 債務不履行と不法行為 9 拳証責任 10 消費者金融 11 不意打ちの禁止 12 無効と取消 						
授業に関連するキーワード	債務不履行	無効	証明	法律行為	不法行為	登記	超過利息
成績評価の方法	7月中旬の一回の試験で。 但し、出席の良し悪しを成績に加味するため、出席を取る。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	教科書	『理論民法』		西台満	高文堂出版社	平成17年	
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5100041			時間数	30	
授業科目名	日本国憲法 B - 自分の憲法観が持てるように -			開講学期等	1期	
授業科目名英字	The Constitution of Japan B					
備考				授業の形式	講義	必修・選択
				受講対象学生	全学部 1～4年	
内容的に密接に関係する授業科目	法律を考えるA・B			履修する際に前提とする授業科目		
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】
西台 満	政策科学	3-328	018-889-2659			
オフィスアワー	【曜日及び時間】	(火) 4:10～5:40		【場所】	西台研究室(3-328)	
授業の目的				授業の到達目標		
<p>自分自身の憲法観を構築してもらうこと。学校で教科書を読んだり教師から聞いたり、テレビや新聞から得た知識は、どこまでも他人のものであって君のものではない。ひょっとしたら騙されているのかも知れない。そういうわけで、これまで皆さんの頭の中に詰め込まれてきた知識を一旦フォーマット(初期化=パソコン用語で、新しいデータを書き込むように、古いデータを全部消去すること)するような講義をするので、後は自分が正しいと思う考えを一つ一つ選択し、積み上げて行って欲しい。</p>				<p>(1) 憲法学界の多数説が中学・高校の教科書に取り入れられ、それが皆の頭に刷り込まれ、国民の常識のようになっていく。そういう憲法観のどこがおかしいのか? 主要な問題を取り上げて、批判する。 (2) たとえ常識みたいに思われていることであっても、自分が納得できないなら納得できるまでとことん考える、という思考力・批判力を鍛える。</p>		
カリキュラム上の位置付け	<p>マスコミや他人の考えに流されたりせず自分の考えで行動できる人、あるいは理科系なら発明・発見ができるような人、そういう人には批判的思考力が絶対に必要である。本講は、憲法を題材にして、そういう能力を引き出そうとする。</p>					
授業の概要と進行予定及び進め方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学問とは何か 2. 憲法の名宛人 3. 基本的人権と「法律の留保」 4. 天皇制の意義と、国事行為に関する解釈 5. 自由と平等の関係 6. 「法の下での平等」の意義と法律制定の目的 7. 選挙と「法の下での平等」 8. 政教分離のあり方 9. 三権分立 10. 衆議院の解散 11. 地方自治を殺す憲法解釈 					
授業に関連するキーワード	民主主義	法律の留保	地方自治	衆議院の解散	法治主義	官僚主権
	信教の自由					
成績評価の方法	<p>7月中旬の一回の試験で評価する。 但し、出席の良し悪しを成績に加味するために、毎回出席を取る。</p>					
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄						
自由記述欄						

科目コード	5100043			時間数	30		
授業科目名	日本国憲法D - 自分の憲法観が持てるように -			開講学期等	1期		
授業科目名英字	The Constitution of Japan D			時間割	1期 火3・4		
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に係る授業科目	くらしと法 - 教養法学 - , 教養ゼミナール2 - 人権の現代的諸相 -			履修する際に前提とする授業科目	特になし		
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
池村 好道	教育文化・地域科学	教文3-330	2661				
オフィスアワー	【曜日及び時間】 月曜日 18:00～19:00			【場所】	教文3 - 3 3 0		
授業の目的				授業の到達目標			
統治機構を中心とした日本国憲法の基礎的理解				1) 憲法上の基本的な諸概念を説明できる。 2) 日本国憲法の基本構造を説明できる。 3) 各種の憲法問題の基礎を的確に把握できる。			
カリキュラム上の位置付け	<p>本学の教育目標である「主体性と節度のある社会人となるための充実した教養教育」のための授業科目の一つ。 本授業科目は統治機構に主眼がおかれており、「人権の現代的諸相」の履修と合わせて、憲法の一層の理解が可能となる。</p>						
授業の概要と進行予定及び進め方	<ul style="list-style-type: none"> 憲法の理念と現実という問題を意識しながら、比較憲法的視点を加味して、統治機構を中心に日本国憲法の入門的解説を行う。 進行予定は以下の通り。 1～2回：国民主権と天皇制：天皇の地位、天皇の行為 3～4回：平和主義：9条の解釈 5～6回：国会：両院制、参議院の存在理由など 7～8回：内閣：議院内閣制など 9～10回：裁判所：司法権の概念と帰属など 11回：地方自治：「地方自治の本旨」など 12～14回：基本権：種類、享有主体など 15回：基本権：私人間効力 講義のなかで、憲法の条文をはじめ「六法」をしばしば参照する。 教育文化学部学校教育課程以外の学生については、受講者の人数制限を行うことがある。 						
授業に関連するキーワード	憲法	戦争の放棄	統治機構	衆議院の解散	象徴	司法権の独立	
成績評価の方法	期末試験の結果（80％）及び学習態度（20％）による。総合60％以上を合格とする。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】			【著者】	【出版社】	【出版年】
教科書・参考書等に関する記述欄	教科書は使用しない。プリントを配付する。参考文献は適宜示す。最も小型のものでよいから、「六法」を用意すること。						
自由記述欄							

科目コード	5100070			時間数	30		
授業科目名	現代社会と経済ⅠA - 経済学入門 -			開講学期等	1期		
授業科目名英字	Modern World and Economy IA: Introduction to Economics						
備考	授業の形式			講義	必修・選択		選択
	受講対象学生			全学部 1～4年			
内容的に密接に関係する授業科目	特になし			履修する際に前提とする授業科目	特になし		
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
島澤諭	教育文化学部	教文3-326	2657				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜 12:00-12:50		【場所】	教文3-326		
授業の目的				授業の到達目標			
日常の経済現象の背後にあるメカニズムを理解し説明できる。				経済学の基礎を身に付ける。 経済学を現実経済に応用できる。 経済現象を経済学的に説明できる。			
カリキュラム上の位置付け	経済学としての方法論についての講義を通じて、経済学的なものを見方を修得する。						
授業の概要と進行予定及び進め方	この授業では、経済学の基礎(主にミクロ経済学)について学習し、日常生活で直面する様々な問題を分析します。毎回の授業は、まずNHKで放送された出社が楽しい経済学(DVD版)を用いて各テーマのイメージを持ってもらったあと、解説を行います。 第1回 インTRODククション 第2回 サンクコスト 第3回 機会費用 第4回 比較優位 第5回 インセンティブ 第6回 同上 第7回 モラルハザード 第8回 逆選択 第9回 価格差別 第10回 裁定 第11回 囚人のジレンマ 第12回 ゲーム理論 第13回 共有地の悲劇 第14回 割引現在価値 第15回 ネットワーク外部性						
授業に関連するキーワード	ミクロ経済学		インセンティブ		情報の経済学		
	ゲーム理論		共有地の悲劇				
成績評価の方法	試験(80%)、学習態度(20%)により行う。総合60%を合格とする。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参考書	『スタバではグラタンを貰え!』		唐本佳生	ダイヤモンド社	2007	
	参考書	『ケルマは家電量販店で貰え!』		唐本佳生	ダイヤモンド社	2008	
教科書・参考書等に関する記述欄	教科書は使用せず、プリントを配布する。 参考書籍等については、適宜授業の中で紹介する。						
自由記述欄							

科目コード	5100100			時間数			
授業科目名	日本と諸外国の政治ⅠA - 現代日本政治 -			開講学期等	1期	時間割	1期 火3・4
授業科目名英字							
備考	授業の形式			講義	必修・選択	選択	
	受講対象学生			全学部 1～4年			
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目						
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
中村裕	政策科学	教文3-	2604				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜日 16:00～17:00		【場所】	3-332		
授業の目的				授業の到達目標			
戦後日本の歴代内閣が掲げた課題，実行した政策を検討することによって，当時の状況のなかで，政治のアクターがどのような選択，決断を行ったのかを理解する。				1) 時代状況の特質を捉えた上で，様々な課題のなかから何が選択されたのかを理解する能力を身につける。 2) 政治のアクター（政治家，政党，官僚，利益集団等）の行動様式とその背景について分析する方法論を身に付けることができる。 3) 今日の政治や社会について分析する手法を修得することができる。			
カリキュラム上の位置付け	社会科学の1領域としての政治学の基礎を，戦後の日本の政治過程の流れの理解を通して修得する。						
授業の概要と進行予定及び進め方	55年体制の形成から戦後日本の政治過程をたどっていくが，以下のテーマに力点を置いて講義を行っていく。 1. 戦後政治の捉え方。 2. 自民党主導の政治と政権交替。 3. 高度経済成長と「経済大国」の諸相。 4. 金権政治批判のなかでの政治のビジョンと権力をめぐる葛藤。 5. 福祉国家体制批判，新保守主義の政治。 6. 政治改革と政界再編。 7. 日米関係の展開：冷戦時代とポスト冷戦期。 8. 議院内閣制のなかでの首相のリーダーシップ。 9. 構造改革と社会格差。 10. 少子高齢化のなかでの政策的課題。 11. 中央地方関係の展開。						
授業に関連するキーワード	自民党	民主党	政権交替	高度経済成長	市場原理	新保守主義	政治改革
成績評価の方法	試験で判定を行うが，資料を利用することは可。ただし，自分の見解・理解についてきちんと書いていなければ，評価は低くなる。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参考書	『自民党』		北岡伸一	中公文庫		
参考書	『戦後政治史 第三版』		石川真澄，山口二郎	岩波新書			
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5100120			時間数	30		
授業科目名	社会と家族A - 家族社会学の基礎 -			開講学期等	1期		
授業科目名英字	Society and Family A: the Basis of Family SociologyA						
備考	授業の形式			講義	必修・選択		選択
	受講対象学生			全学部 1～4年			
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目						
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
石沢真貴	政策科学	教文3-331	2616				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	火曜14:30～16:00		【場所】	教文3-331		
授業の目的				授業の到達目標			
<p>家族に関する諸問題を、家族とは何かを問いつつ考察することで、現代社会への関心を高める。</p>				<p>家族に関する基礎知識を身につける。 社会集団としての家族の構造や機能を理解する。 家族をとりまく社会変化を理解する。 家族に関する社会制度を理解する。</p>			
カリキュラム上の位置付け	<p>社会科学的な視角、考察力を養うための基礎的な科目 社会学、特に家族社会学的内容</p>						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>授業の概要 家族に関わる現代的諸問題について、家族とは何かを問いつつ考察する。</p> <p>進行予定及び進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 家族の定義 3 家族に関する基礎的概念 4 家族と法 5 家族に関する法の近年の動向 6 近代社会と「近代家族」 7 世帯構造の変化でみる現代家族 8 世帯構造変化の要因 9 家族機能の変化と家族問題 10 社会制度としての結婚 11 結婚に関する近年の動向 12 離婚・再婚に関する近年の動向 13 夫婦関係と性別役割分業 14 女性と労働 15 現代家族のゆくえ 						
授業に関連するキーワード	家族	近代	社会学				
成績評価の方法	<p>・ 授業の最後にレポートもしくは記述試験により成績を評価し、原則として再試験や追試験は行わない。 ・ 授業内のレポート等提出物を評価の際に考慮する場合もある。 ・ 総合的な評価の結果が6.0点未満の場合は不合格Dとする。</p>						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】		
教科書・参考書等に関する記述欄	・教科書は使用しない。・必要に応じて参考文献を紹介したり、プリント資料を配布したりする。						
自由記述欄							

科目コード	5100130			時間数	30		
授業科目名	大学生活と学習II - 大学教育・学習論 -			開講学期等	1期		
授業科目名英字	Campus Life and Learning II: Teaching and Learning in University						
備考	授業の形式			講義・学生参加型	必修・選択	選択	
	受講対象学生			全学部 1～4年			
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目			(特になし)			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
細川 和仁	教育推進総合センター	学生支援棟2F	018(889)3188				
オフィスアワー	【曜日及び時間】 木曜7・8限			【場所】	教員室		
授業の目的				授業の到達目標			
大学における教育・学習の特徴や最新の動向について教育学や学習論の観点から講義し、大学で学ぶことの意義について考察します。				1) 大学の教育・学習に関する基礎的事項について説明できる。 2) 大学の教育・学習の課題について自分なりに問いを立て、論理的に述べることができる。 3) この授業を通じて得た知識・技能・経験に対して、自分なりに意味づけできる。 4) 大学の教育ポリシーに関して、他の受講者と建設的な意見交換ができる。 5) 自分の考えをまとめ、他の受講者にわかりやすく説明するための工夫ができる。また、他の受講者の説明を聞くことができる。 6) 自らの学歴意識や大学での学習に対する意識を、積極的に省察する。			
カリキュラム上の位置付け	学部・学科・学年によらず受講できる主題別科目です。						
授業の概要と進行予定及び進め方	日本の大学は、大きな変化の真っただ中にあります。その背景の一つとして、大学進学率の上昇を挙げることができます。現在の日本の大学進学率は何割くらいかご存知ですか？ 大学進学率の上昇は、より多くの人々が高等教育機関で学ぶことができる、という点で望ましいことだという意見があります。その一方で、誰でも簡単に大学に進学できるというのはいかかなものかという意見もあります。社会の中で大学に求められる機能・役割は変化してきており、その変化に対して大学がどのように取り組んでいるのかを紹介していきます。 さらには、大学に進学するという選択について、自分自身を振り返って省察(せいさつ)するというのも授業の中での大事な作業になります。大学を取り巻く現状について知るとともに、そこで学習する意味、意義について考えていきましょう。 取り上げるテーマとキーワードは次の通りです。 第1回～第2回 大学教育・学習論へのいざない ユニバーサル化する高等教育(大学進学率、大学「全入」時代、大衆化) 第3回～第5回 高校と大学のはざま 大学に進学する動機(学歴意識、不本意就学、満足度)、 大学の「学校化」と学生の「生徒化」(高校と大学、高校生と大学生、近代学校システム) 第6回～第8回 大学教育の3つのポリシー 大学の入学受入れ方針(アドミッション・ポリシー)、学位授与方針(「学士力」、「社会人基礎力」、コンピテンシー) 第9回～第11回 カリキュラムの接続 大学のカリキュラム(教養教育、専門教育、単位制、高校との接続、CTC) 第12回～第14回 大学授業の設計と評価 大学の授業改善(授業評価、良い授業、悪い授業、FD、学習意欲)、 大学授業のデザイン(シラバス、成績評価、到達目標)、 学びの技法(読む・書く・調べる・聞く・話す) 第15回 大学における教育・学習の課題 大学改革の担い手(学習する環境づくり)、大学教育・学習の課題(レポート)						
授業に関連するキーワード	学習	大学教育	大学生	進学	カリキュラム	成績評価	
成績評価の方法	成績評価は100点を満点とし、次の3つの課題に配点する。 (参考)2005～2009年度の成績評価分布……A43%、B35%、C14%、D8% (1)小レポート(30点)(到達目標4、5) (2)大レポート(40点)……授業内容に関連するテーマについてのレポート。(到達目標1、2) (3)リフレクション・ノート(30点)……各回の授業終了時に記入し提出する。(到達目標3、6)						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参考書	『天学生の学び・入門』		溝上慎一	有斐閣	2006	
	参考書	『よくわかる学びの技法(第2版)』		田中兵子	ミネルヴァ書房	2010	
	参考書	『教育の職業的意義 若者、学校、社会をつなぐ』		本田由紀	碩摩書房	2009	
	参考書	『キャンパスライラの今』		砥内清	庄川大学出版会	2003	
参考書	『先生はえらい』		内田樹	碩摩書房	2005		
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄	各回の授業は、教員による講義と学生同士の意見交換を中心に進めます。自分の意見を持つこと、それを他者に伝えること、他者の意見を聴く姿勢を整えることを重視します。積極的に参加して下さい。						

科目コード	5100140			時間数	30		
授業科目名	倫理リテラシー			開講学期等	1期		
授業科目名英字	Ethics Literacy			時間割	1期 木3・4		
備考				授業の形式	必修・選択		
				受講対象学生	全学部 1年		
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
銭谷 秋生	教育推進総合センター	2252	018-889-2252	石井 範子	医学系研究科	6515	018-884-6615
坪井 ひろみ	工学資源学研究科	2842	018-889-2842				
オフィスアワー	【曜日及び時間】 銭谷：金曜3・4限			【場所】	学生支援棟2階教員室		
授業の目的				授業の到達目標			
現代社会の様々な領域において解決や決断を迫られている倫理的問題を抽出し、その由来、内容、解決策を考えるために押さえておくべき論点などを論じることで、現代社会が内包する倫理的問題の地図を提示する。				1) 「善き生」や「正義にかなった社会」の諸原則を理解し、説明できる。 2) 今日の社会がどのような新たな倫理的問題を内包しているのかを説明できる。 3) それらの問題を考えるために押さえておくべき論点を整理できる。 4) そのような論点整理をしたうえで、想像力と分析力をもって、問題に関して自ら意見を述べることができる。			
カリキュラム上の位置付け	本学の教育目標1の「社会の変化に柔軟に対応できる幅広い教養」ならびに教養基礎教育の目標2の「現代の諸問題の認識」に関わる科目である。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>1. 授業の概要 例えば医療技術の進歩は、これまでの価値観の枠組みが予想していないような倫理的問題を課してくる。家畜に应用されているクローン産生技術を生み出すことにも応用していかんといった問題、あるいは人工呼吸器をつけてやれば脳幹の機能は停止していても心臓は動き続ける患者を「死亡した」人間とみなしていかんといった問題がこれに当たる。医療以外の場でも、このような新しい倫理的問題が姿を現している。この講義では、時代の進展とともに生じてきた新たな倫理的問題を取り上げ、論点を整理し、学生の皆さんが「よく」生きることを考えていく上で、材料を提供したい。</p> <p>2. 進行予定</p> <p>1) 「善き生と道徳の原則 なぜ道徳というようなものが必要なのかということの考察</p> <p>2) 「正義にかなった社会」の諸構想 リベラリズムをめぐる論争の考察</p> <p>3) グローバリズムが引き起こす倫理的問題 資源、モノ、技術、企業形態と貧困の関わり方の考察</p> <p>4) 医療の場でのジレンマ問題 医療・看護の場でどのような倫理的ジレンマが起こるのかということの考察</p> <p>5) 生命倫理の諸問題 生命の処遇をめぐる倫理的問題の考察</p>						
授業に関連するキーワード	善き生		社会正義		グローバリズム		
	医療・看護とジレンマ		生命倫理				
成績評価の方法	授業中に課された小レポートと期末のレポートを総合的に評価する。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	参考文献は、その都度、講義の中で紹介していく。						
自由記述欄							

科目コード	5110040			時間数	30		
授業科目名	心理学I - 心の科学史 -			開講学期等	1期		
授業科目名英字	Psychology I: Introduction to Psychology						
備考	受講希望者が150名を越えた場合には、抽選によって受講生を選抜する。			授業の形式	講義	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1~4年		
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
中野良樹	教育文化学部	教育5 - 402室	2591				
オフィスアワー	【曜日及び時間】			【場所】			
授業の目的				授業の到達目標			
人間の心は知・情・意の機能が三位一体となることで成立するといわれる。本授業では、これら三つの機能について古典的な心理学の実験や理論を学び、それを踏まえて最新の脳科学などの知見に結びつけ、人間の心の有り様について自分なりに理解し、考察できるようになる。				1) 認知、記憶、感情などの機能について心理学の基本的な知見、理論を説明できる。 2) 人間の心の仕組み、行動の原理について自分なりの考えを述べられる。			
カリキュラム上の位置付け	認定心理士対象科目						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>1. 心の科学への招待 「心」への科学的アプローチとは</p> <p>第1部 「知」の科学</p> <p>2. 視覚の冒険 実験心理学の王道をゆく</p> <p>3. 人はいかにして世界を知るのか？(1) 形の知覚</p> <p>4. 人はいかにして世界を知るのか？(2) 主観的輪郭と遮蔽</p> <p>5. 人はいかにして世界を知るのか？(3) 立体視</p> <p>6. 思い出をつくるメカニズム 記憶モデルの基本</p> <p>7. 「忘れる」ことの幸せと不幸せ 記憶と忘却の神経心理学</p> <p>8. 人間の知、機械の知 問題解決をめぐる認知科学と認知工学</p> <p>9. 人間の賢さと愚かさ 分かりそうで分からない思考問題の数々</p> <p>第2部 「情と意」の科学</p> <p>10. 人間と動物の心に境界はあるのか？ 行動主義心理学の興亡</p> <p>11. 「自分を知る」のは人間だけなのか？ 作業記憶から自己意識への展開</p> <p>12. 心の進化の行く先 自己意識をめぐる動物心理学の発展</p> <p>13. 「こころ」と「あたま」と「きもち」 - 前頭葉の認知神経科学</p> <p>14. 私たちは悲しいから泣くのか、泣くから悲しいのか？ 感情をめぐる永い議論</p> <p>15. あなたたちは「こころ」を理解できたか？ まとめ</p> <p>上記の講義日程完了後に試験を行う</p>						
授業に関連するキーワード	認知心理学	感情心理学	生理心理学	感情心理学			
成績評価の方法	授業中に2回~4回の抜き打ちレポートを実施する。レポートでは授業の内容を理解した上で自分なりの考えを述べられるかを評価する(到達目標2)。レポートを実施した授業に欠席した受講生は、翌週の授業で担当教員からレポート用紙を受け取り、その翌週の授業で提出する。これ以外の方法での提出は認めない。欠席が事前に報告されていない場合は、評価は大幅に下がる。最終週の試験では授業で取り上げた心理学の知見や理論に関して基本的な説明を求める(到達目標1)。レポートの評価と試験の点数をそれぞれ50%とし、総点が60点以上の受講生に単位を認める。なお、試験の欠席は原則認めない。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	教科書	『グラフィック心理学』		北尾・中島ら	伊豆エンス社		
	参考書	『サブリミナル・マインド』		下條信輔	中公新書		
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5110080			時間数	30		
授業科目名	文学論 A - 教養読書基礎講義 -			開講学期等	1期		
授業科目名英字	Lecture on Literature A:Lecture on liberal reading						
備考	授業の形式			講義	必修・選択	選択	
	受講対象学生			全学部 1~4年			
内容的に密接に係る授業科目	特になし			履修する際に前提とする授業科目	特になし		
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
成田 雅樹	教育文化学	教3 - 139	2531				
オフィスアワー	【曜日及び時間】 月火木金曜日 12:50~16:00			【場所】	教育文化学部 3 - 139 (電話: 889 -		
授業の目的				授業の到達目標			
<p>1) 映像化された作品と原作の文章表現との比較によって、文学作品をストーリーやプロット、レトリックの面から分析する方法を学習し、文学の本質について考察する。</p> <p>(2) 文学作品を作者の生き方と比較して分析する方法を学習することを通して、文学の本質について考察する。</p>				<p>(1) 原作の文章表現及び映像化された作品の構造を分析し、文学作品の様々な「しかけ」を理解することができる。</p> <p>(2) 原作と映像化された作品との比較を通して、文学的表現の本質について論することができる。</p> <p>(3) 一般的な近代文学作品と児童文学作品の構造及び表現上の違いについて論することができる。</p>			
カリキュラム上の位置付け	<p>目的主題別としては「学問の方法」を主とする科目。また、教養基礎教育の目標2と関わって、文学作品を様々な方法で分析することを通して、文学を通して人間や文化を考察していく契機とするものであり、かつ発表、討論及び論文作成の基礎力を養おうとするものである。</p>						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>1(4/8)回...オリエンテーション(本授業の特色・進め方解説、批評理論の概説、ミニレポート「私にとっての文学」)</p> <p>2(4/15)~4(5/6)回...明治期の文学として、夏目漱石の作品とその映像の比較検討、及び作者夏目漱石と作品の関わりについて考察する。「それから」を扱う。ミニレポート(映像と原作の比較・作家の人生と作品の比較)</p> <p>5(5/13)~6(5/20)回...大正期の文学として、芥川龍之介の作品と作者芥川龍之介との関わりについて考察する。「トロッコ」「屋敷」を扱う。ミニレポート(作家の人生と作品との比較・長編と短編との比較・2作品の比較)</p> <p>7(5/27)~8(6/3)回...大正から昭和期の児童文学として、宮沢賢治の作品とその映像の比較検討、及び作者宮沢賢治と作品の関わりについて考察する。「注文の多い料理店」「ゼロ弾きのゴージュ」を扱う。ミニレポート(映像と原作との比較・作家の人生と作品との比較・児童文学と成人向け作品との比較・2作品の比較)</p> <p>9(6/10)回...昭和期の文学として、太宰治の作品と作者太宰治との関わりについて考察する。「人間失格」を扱う。ミニレポート(作家の人生と作品との比較・例えば「走れメロス」との比較)</p> <p>10(6/17)~11(6/24)回...昭和期の児童文学として、新美南吉の作品と作者新美南吉との関わりについて考察する。「ごんぎつね」を扱う。ミニレポート(以前の読後感との通時的比較・作家の人生と作品との比較)</p> <p>12(7/1)~13(7/8)回...現代的な文学作品として、よしもとばななの作品とその映像の比較検討、及び作者よしもとばななと作品の関わりについて考察する。「つぐみ」を扱う。ミニレポート(映像と原作との比較)</p> <p>14(7/15)~15(7/22)回...現代の児童文学作品として、立松和平のいわゆる命シリーズの比較検討、及び作者立松和平と作品の関わりについて考察する。「山のいのち」「海のいのち」「街のいのち」を扱う。ミニレポート(重ね読みによる「いのち」の意味の考察・絵本作品と文庫本作品との比較)</p> <p>16(7/29)回...試験(レポート)</p> <p>2~4回, 7~8回, 12~13回はビデオを使用する。授業で扱う原作の中で、短編は授業時間内に読むこともある。ただし、2回目までに「それから」を、9回目までに「人間失格」を、12回目までに「つぐみ」を読んでおくこと。また、各作家のその他の作品を随時読み、授業中の発表に備えることが望ましい。</p> <p>ミニレポートは、各回の授業をふまえて、各回のシラバスにあるテーマで家庭学習した結果をまとめて翌週に提出する。</p>						
授業に関連するキーワード	同化と異化及び通時的比較と共時的比較	観想的態度	ストーリーとプロット及びアイロニーとリアリティ	解釈と物語スキーマ	観点及びシーンとサマリー	芸術的価値と内容的価値及び気分清調とアレゴリー	
成績評価の方法	<p>出席率と発表や討論などの授業への参加状況と態度、及び授業中のノート・カード類とレポートの内容などを総合して評価する。出席と提出物の提出回数(作家ごとのミニレポート7枚等と試験レポート1枚)が2/3に満たない者は不可とする。この条件を満たしかつ授業で解説した内容を理解している場合: C、出席及び提出物の数がほぼ完全でかつ授業内容をふまえた自身の考察が到達目標に達している場合: B、Bの者で提出物の内容が到達目標に十分達していると認められる場合: A、Aの者で内容理解や考察が特に優れている場合: S。配点は概ね、授業中の取組35点、提出物の内容35点、試験レポートの内容30点とする。追試・再試は行わない。</p>						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】		
教科書・参考書等に関する記述欄	<p>「それから」「人間失格」「つぐみ」以外の授業中に読むテキスト(原作の文章)及び資料は印刷して配布するが、図書館で借りるか文庫本を書店で購入することを勧める。また、作家の伝記的内容については、新潮社「文豪ナビ」シリーズが廉価で入門者向きである。</p>						
自由記述欄							

科目コード	5110100			時間数	30		
授業科目名	みんなの言語学			開講学期等	1期		
授業科目名英字	Our Linguistics			時間割	1期 金9・10		
備考				授業の形式	講義・学生参加型	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
佐藤 稔	教文 日本・アジア文化	教文3-	018-889-2613				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	火曜日 14:30～16:00		【場所】	教文3-314		
授業の目的				授業の到達目標			
言語と人間の関わりを軸にして、日本文化の特性を認識する。特に、身の回りの身近な事例に基づいて、言語の運用・コミュニケーションの機微について学ぶ。言語使用によって人間関係の円滑な構築・修復ができるためにはどんな技能が必要かを考える。				(1) 日本語文化が過去から継承した遺産、現状、および未来について、個々人が所属する集団における詞の具体的な事象から考察する。「ことばにはそれぞれ通用範囲がある」という認識を確かなものとする。 (2) ことばの規範に対する意識を持ち、言語運用上の技能を高める。			
カリキュラム上の位置付け	教養教育科目(目的・主題別科目)の「人間発達と文化」の一つとして設定。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<ol style="list-style-type: none"> みんなの言語学 - 総論 - <ol style="list-style-type: none"> 1.1 ヒトとしての進化 - ことばをもつことの意味 - 1.2 「ことば」のはたらき - 思考と通達 - 1.3 「母語」の役割 - なぜ重要なのか - 方言(地域語)の衰退と復権 <ol style="list-style-type: none"> 2.1 年寄りと若者のことばの壁 2.2 各地の方言をクイズ形式で楽しむ 2.3 モノの消失とことばの消滅 2.4 方言昔話を実演する 2.5 方言も「立派な」言語である 通用範囲の限られたことば(ジャルゴン) <ol style="list-style-type: none"> 3.1 若者専用語・キャンパスことば・ギャル語 - すぐに古びてしまうことば - 3.2 隠語・業界語 - どこで使用されるか、なぜ使用されるか? 3.3 学術用語・専門語 - どんな世界があるか、「大人」となるということ - 差別とことば <ol style="list-style-type: none"> 4.1 「差別語」は悪か? 4.2 差別語を言い換える試み - マスコミの「ことば狩り」 - 4.3 差別語を無くすことは可能か? 4.4 ジェンダーとことば - 「男」と「女」の現在(いま) - 敬語社会に生きる <ol style="list-style-type: none"> 5.1 敬語が「正しく使える」とは? - バカ丁寧化する現実のなかで - 5.2 敬語の社会的機能 - 敬語が使えないと困るのか? - 5.3 敬語チェック - 「正誤」から見た敬語 - 5.4 理想の敬語 						
授業に関連するキーワード	言語	母語	差別語	ジャルゴン	方言	敬語	カタカナ語
成績評価の方法	各回での発言、講義への出席状況、レポートによる。出席は15回実施するもののうち3分の2を下回った場合、「不合格」とする。また、授業終了時に提出する「受講調査票」には、その日の授業に関する感想、質問、意見等を必ず記入すること(形式自由)。レポートは手書きの場合は読みやすい文字で丁寧に書いて提出すること。紙型はA4サイズ。プリンタで印字の場合の紙型もA4、40字×40行が望ましい。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】			【著者】	【出版社】	【出版年】
	教科書	『なし』					
参考書	『教室で紹介する』						
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5110120			時間数	30		
授業科目名	東洋思想史		開講学期等	1期		時間割	1期 木1・2
授業科目名英字	History of Oriental Thought						
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目	中国文化基礎論、中国文化論、日中比較文化論、中国史基礎論、アジア歴史文化論			履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
吉永 慎二郎	日本・アジア文化	3 - 130	2609				
オフィスアワー 【曜日及び時間】 木曜日 7・8時限 【場所】 3-130 (吉永研究室)							
授業の目的				授業の到達目標			
学習者がユーラシア的及び世界的視野からの中国文明や日本文明の展開に関する思想的テーマや文明のシステムについての理解を深め、今日のアジア、世界を見るための知見や方法的諸概念を習得することを目的とする。				学習者は、1. ユーラシアの世界史的な文明の伝播、2. 中国文明の成立と思想的展開、3. 中国文明の持続のシステム、4. 日本文明の成立と持続のシステム、5. 日中両文明の近代化、についての知見や方法的諸概念を身につける。			
カリキュラム上の位置付け	総合基礎教育の教養科目として、「学問の体系・知識の伝授を通じて、学問の古典的な体系やその視点に触れる」を主とする。また専門の中国文化論(思想史)、日中比較文化論への導入としての位置づけを持つ。						
授業の概要と進行予定及び進め方	一般的に考えられているほどに中国文明は他の影響と無関係に自足的に展開してきたわけではない。例えば、麦の生産・彩陶・青銅器・鉄器などの技術や知識はいずれも、西方から伝播している。また文字の伝播についても同様の指摘がなされている。高度技術の伝播はしばしば民族の移動と文明の融合と再生を伴う。歴史的にはそれは三つの大きな思想変革として把握しうる。一つは殷から周への王権交代(殷周革命)の際の天の思想の形成とその後の諸子百家の思想の展開と開花であり、二つは仏教思想の伝播による儒教的中華思想の相対化という衝撃とこれを受けての朱子学の形成であり、三つは西洋近代文明の衝撃と近代化(西洋文明の受容と近代国家の建設)への思想展開とである。これらの文明の伝播や思想的展開は日本文明のありかたにも波及し一定の影響を与える。本講義では、これらの思想的構図をふまえて中国文明と日本文明の展開と持続のシステムについて考察を加え概説する。 1. 文化とは何か、文明とは何か 2. 単数の文明と複数の文明 3. 中国文明の持続のシステム 4. 日本文明の持続のシステム 5. ユーラシアにおける文明の伝播と中国文明 6. ユーラシアにおける文字の伝播と漢字 7. 中国文明の帝の思想と地下型他界観 8. 中国文明の天の思想と天上型他界観 9. 天の思想と孔子 10. 天の思想と墨家 11. 天の思想と孟子 12. 中国文明の儒教国教化と政教一体システム 13. 日本文明の仏教国教化と政教分立システム 14. 日本文明の近代化 15. 中国文明の近代化 16. テスト						
授業に関連するキーワード	文化と文明 地下型他界観と天王型他界観 近代化と現代化と民主化	文明の伝播 政教一体と政教分立 立憲君主制と大統領制	文明持続のシステム 易姓革命と万世一系 巨権分立と一党独裁				
成績評価の方法	テスト及び平常点を総計して100点満点とし、60点以上を合格とする。テストは、その回答結果が授業内容の基本的理解と習得を示すものとなっているかどうか、また論理的に見解が記述されているかどうか、などが評価基準となる。 成績配点の基準及び出席時数の取扱は「単位認定のきまり」による。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参考書	『中国史上・下』		屋嶋市定	岩波全書	昭和52(1977)	
	参考書	『中国文明史』		W. E. ギーバー・バ儿下	碩摩	平成3(1991)	
	参考書	『儒教とは何か』		加地伸行	中公文庫	平成12(1990)	
	参考書	『ハウツダ・仏教』		中村 元	小学館	昭和62(1987)	
参考書	『戦国思想史研究』		吉永慎二郎	朋友書店	平成16(2004)		
教科書・参考書等に関する記述欄	教科書は特になし、授業にて配布するプリントと講義内容が教科書に相当します。						
自由記述欄							

科目コード	5110140			時間数	30		
授業科目名	教育学I - 現代社会と教育 -			開講学期等	1期		
授業科目名英字	Pedagogy :Modern Society and Education						
備考	授業の形式			講義	必修・選択		選択
	受講対象学生			全学部 1~4年			
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目						
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
佐藤修司	学校教育課程	教文5号館	509018-889-2541				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	金曜16:00-17:00		【場所】	教文5号館509室		
授業の目的				授業の到達目標			
学校教育にとどまることなく、生涯にわたる人間の発達をトータルに捉え、現代社会における教育のありようをさまざまな角度から分析する。				教育の側面から人間存在の現代社会における位置と課題・展望についての認識を獲得し、それを通して自らの成長過程・学校体験を相対化し、自己の存在を未来に向けて開いていく契機とする。			
カリキュラム上の位置付け	教育学関連科目の導入的位置にある。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>オリエンテーション：教育について考える 学校について考える(1)：映画『学校』を素材に 学校について考える(2)：" 教師について考える(1)：プロフェッションとしての教師 教師について考える(2)：" 子どもについて考える(1)：夜回り先生を素材に 子どもについて考える(2)：" 体罰・懲戒について考える 校則・子どもの人権について考える 受験競争について考える いじめについて考える 不登校について考える 引きこもりについて考える 戦争・平和と教育について考える グループ別検討会</p> <p>映像教材を基本にしなが現代社会と教育のありかたを考える。授業内でレポートを作成し、発表するなどのことを行う。</p>						
授業に関連するキーワード							
成績評価の方法	履修カード・授業内レポート(30%)、レポート(30%)、最終試験(40%)						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】		
教科書・参考書等に関する記述欄	授業内で適宜指示する。						
自由記述欄							

科目コード	5110150			時間数	15時間	
授業科目名	教育学IIA - 現代社会と子育て支援 -			開講学期等	1期前半	
授業科目名英字	Pedagogy A : Modern Society and Child care support					
備考	授業の形式		講義および演習	必修・選択	選択	
	受講対象学生		全学部 1~4年			
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目					
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】
奥山順子	発達教育	教育文化学	018-889-2677			
オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜日16:00-18:00		【場所】	教育文化学部5-308	
授業の目的			授業の到達目標			
現代社会における家族、特に乳幼児を育てる家族と地域社会とのかかわりの課題を考える。 これからの学校や幼児教育・保育施設の役割について考える。			子育てにかかわる親や保育者等の様々な人々の意識や、専門機関の役割が、現代社会の中でどのような変化を求められているのかについて問題意識を持つ。 現代の子育て・保育と地域社会・家庭とのかかわりについて自らの課題をとらえて考察する。			
カリキュラム上の位置付け						
授業の概要と進行予定及び進め方	1. 子育てと地域社会 子育てと地域社会のかかわりを歴史的視点から考察する。地域社会の教育機能 2. 家庭の変化と子どもの価値 家族関係や家庭の機能の変化は、子どもの発達にどのような影響を及ぼしたか。 家庭と学校（幼稚園・保育所）との関係 3. 子どもが育つ環境 子どもは誰が育てるのか 4. 子どもが育つ環境 大人にとっての子どもとは 5. 「子育て支援」とは？ 「子育て支援」の目的、実践の現状と課題 誰が誰を支援するか？ 6. 地域の実情と子育て事情 多様な課題と可能性 7. サービスと保育 企業による保育、保育サービス事業、子育ての外注化などについて、「ニーズに応じる保育」を、「ニーズを育てる」観点から検討し、これからの社会における子育てのあり方、親の役割を考える。 8. まとめ					
授業に関連するキーワード	教育	育児	社会	子育て支援		
成績評価の方法	レポート70% 授業中の課題30%					
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参考書	『子育て支援とNPO』	原田正文	株書房	2002年	
	参考書	『子育てられる者から育てる者へ 関係発達論の視点から』	関岡峻	NHKブックス	2002年	
	参考書	『子どもという価値』	阳木恵子	中公新書	2001年	
教科書・参考書等に関する記述欄						
自由記述欄						

科目コード	5110151			時間数	15時間	
授業科目名	教育学II B - 現代社会と子育て支援 -			開講学期等	1期後半	
授業科目名英字	Pedagogy B : Modern Society and Child care support					
備考	授業の形式			講義および演習	必修・選択	選択
	受講対象学生			全学部 1~4年		
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目					
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】
奥山順子	発達教育	教育文化学	018-889-2677			
オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜日16:00-18:00		【場所】	教育文化学部5-308	
授業の目的			授業の到達目標			
現代社会における家族、特に乳幼児を育てる家族と地域社会とのかかわりの課題を考える。 これからの学校や幼児教育・保育施設の役割について考える。			子育てにかかわる親や保育者等の様々な人々の意識や、専門機関の役割が、現代社会の中でどのような変化を求められているのかについて問題意識を持つ。 現代の子育て・保育と地域社会・家庭とのかかわりについて自らの課題をとらえて考察する。			
カリキュラム上の位置付け						
授業の概要と進行予定及び進め方	1. 子育てと地域社会 子育てと地域社会のかかわりを歴史的視点から考察する。地域社会の教育機能 2. 家庭の変化と子どもの価値 家族関係や家庭の機能の変化は、子どもの発達にどのような影響を及ぼしたか。 家庭と学校(幼稚園・保育所)との関係 3. 子どもが育つ環境 子どもは誰が育てるのか 4. 子どもが育つ環境 大人にとっての子どもとは 5. 「子育て支援」とは？ 「子育て支援」の目的、実践の現状と課題 誰が誰を支援するか？ 6. 地域の実情と子育て事情 多様な課題と可能性 7. サービスと保育 企業による保育、保育サービス事業、子育ての外注化などについて、「ニーズに応じる保育」を、「ニーズを育てる」観点から検討し、これからの社会における子育てのあり方、親の役割を考える。 8. まとめ					
授業に関連するキーワード	教育	育児	社会	子育て支援		
成績評価の方法	レポート70% 授業中の課題30%					
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参考書	『子育て支援とNPO』	原田正文	硯書房	2002年	
	参考書	『<育てられる者>から<育てる者>へ 関係発達論の視点から』	関岡峻	NHKブックス	2002年	
	参考書	『子どもという価値』	阳木恵子	中公新書	2001年	
教科書・参考書等に関する記述欄						
自由記述欄						

科目コード	5110160			時間数	15		
授業科目名	芸術と文化I - 日本の音楽文化 -	開講学期等	1期	時間割	1期 水9・10		
授業科目名英字	Art and Culture I : Japanese Music						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1~4年				
内容的に密接に関係する授業科目	芸術と文化 II 世界の音楽		履修する際に前提とする授業科目				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
武内 恵美子	音楽教育講座	2565	018-889-2565				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜日 14:30~16:00		【場所】	教育文化学部2号館 206号室		
授業の目的				授業の到達目標			
日本の音楽の歴史を理解し、他国の音楽との相違を認識する。また音楽文化が社会に与える影響、果たす役割について理解する。				日本人のアイデンティティを持ち、日本の音楽について他者に説明し、議論できるようにする。			
カリキュラム上の位置付け	幅広い教養としての日本文化ならびに音楽の知識を身に付け、音楽文化に対し偏りのない柔軟な姿勢と判断力を培う。						
授業の概要と進行予定及び進め方	1. ガイダンス、古代の音楽1 縄文~古墳時代の音楽文化、シルクロードの音楽 2. 古代の音楽2 雅楽・伎楽等 3. 古代の音楽3 声明 4. 中世の音楽1 舞の系譜、白拍子、曲舞、幸若舞 5. 中世の音楽2 能楽(猿楽) 6. 中世の音楽3 狂言 7. 中世の音楽4 田楽、平曲、風流、オラシヨ等 8. 近世の音楽1 歌舞伎 9. 近世の音楽2 文楽 10. 近世の音楽3 三味線音楽 11. 近世の音楽4 地歌箏曲、尺八等 12. 近代の音楽1 浪曲、唱歌、童謡 13. 近代の音楽2 浅草オペラ、宝塚歌劇団等 14. 現代の音楽 歌謡曲 15. 試験 *音楽視聴の関係で、終了時刻が数分程度延長する場合があります。						
授業に関連するキーワード	日本音楽史	音楽	文化				
成績評価の方法	1. 試験70%、受講姿勢30%により評価。 2. 全体の1/3(5回)以上欠席した場合は試験を受けても単位は認定しません。 3. 授業中の私語、携帯電話の操作は厳禁です。 4. 注意をしても受講態度を改めない場合は退室してもらいます。その場合の当日の出席はカウントしません。 5. 30分以上遅刻の場合は欠席とみなします。 6. 出席が足りていても試験を受けない場合は単位は認定しません。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】		
	なし	授業でプリントを配布。					
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5110180			時間数	30		
授業科目名	芸術と文化III A - 絵画にみる音楽と文学の照応 -	開講学期等	1期	時間割	1期 木5・6		
授業科目名英字	Art and Culture IIIA:Common Themes in Arts						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	アジア美術表現論		履修する際に前提とする授業科目				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
猪巻 明	美術教育	教文1-315	2556				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜日16:00～18:00		【場所】	教文1-315		
授業の目的				授業の到達目標			
芸術の融合（文学、絵画、音楽の照応）絵画と音楽の同一主題による芸術表現を追求する。 ルネサンスから現代までの絵画芸術と音楽芸術（交響曲、交響詩、舞曲、歌劇、楽劇、歌曲、童謡、歌謡曲、邦楽、その他）を比較しながら、作品の時代背景と、画家と作曲家についての芸術における係わりを学ぶ。				1)近代の西洋音楽が文学（詩、小説、戯曲）と絵画の影響のもとに成立していることが理解できる。 2)西洋美術史の中で、イタリアルネサンス（15世紀）、フランスロココ王朝時代（18世紀）、フランス象徴派・印象派（19世紀）、イギリスラファエル前派（19世紀末）、ベルギー象徴派・ウィーン分離派（19世紀から20世紀初頭）、フランス・ナビ派（19世紀末から20世紀前半）のそれぞれの芸術運動と様式が理解できる。 3)日本の浮世絵がフランス印象派の画家を始め多くの西洋の画家に影響を与え、その上西洋の近代音楽にまで示唆していることを理解して、説明できる。 4)近代日本画の中には日本の歌（歌曲、童謡）や歌謡曲を反映した作品が多くみられ、この二つはいかに大衆文化と密着しているかを理解して、説明できる。 5)邦楽と浮世絵、近代日本画と浮世絵版画と邦楽との対応により、日本の江戸時代以来の音楽と絵画の係わりを理解して、説明できる。			
カリキュラム上の位置付け	絵画と音楽の同一主題による様々な芸術表現の追求により、一般教養としての芸術の理解を手助けしようとしたものです。						
授業の概要と進行予定及び進め方	CD、ビデオ等（音楽）拡大投影機、スライド、ビデオ等（絵画）による鑑賞を主として音楽と絵画の照応について学ぶ。 1 レスピーギ「交響詩ポッティチェリの三枚の絵」（春、東方三博士の礼拝、ヴィーナスの誕生） 2 ドビュッシー「牧神の午後への前奏曲」「交響詩 海」 ストラヴィンスキー「春の祭典」 プーシェ「牧神とシューリンクス」 3 ラヴェル「タフニスとクロエ」 シャガールが描いたバリ、オペラ座の天井画。ダフニスとクロエを描いた画家達 4 ドビュッシー「選ばれた女」19世紀末英国ラファエル前派作品と同一テーマの音楽 5 ドビュッシー「ペレアスとメリザンド」モーリス・ドノの「セザンヌ礼讃」に描かれたメーテルリンクと親交のあったナビ派の画家達 6 R.シュトラウス「サロメ」 モローの「雅歌」と矢代秋雄の「ピアノ協奏曲」ヨハネ伝に登場するサロメを描いたイタリアルネサンス・フイレンツェ派の画家達 7 ドビュッシー「月の光」 フォーレ「月の光」 ラヴェル「草の上」 ホフマン「舟歌」 ラヴェル「夜のガスパール」 ヴァトー「シテール島への船出」 銅版画家ジャック・カロ作品と絵画と音楽 8 ラフマニノフ 交響詩「死の島」 ワーグナーとベックリン、ワーグナーの楽劇と絵画 9 マラー「第1交響曲」クリムト三部作「哲学、医学、法学」とマラーの第8交響曲 クリムトの「彫刻」のアレゴリーとマラー第5交響曲と映画「ベニスに死す」 10 ヴィバルディ「四季」曆絵とプリューゲル作品 ジャン・フランソワ・ミレーの四季を描いた作品 11 プッチーニ 歌劇「蝶々夫人」小早川清「お蝶夫人」と「蝶々夫人」初演の舞台衣装デザイン画 12 團伊玖磨 歌劇「夕鶴」北沢映月「ある月の安英さん」と福田豊四郎の挿絵「夕鶴」 13 日本の歌と近代日本画作品 山田耕筰「この道」と山本丘人「残夢抄」 堂本印象「坂」 三浦文治「動物園行楽図」 14 歌謡曲と近代日本画作品 美空ひばり、石川さゆり、小林幸子、その他 15 邦楽の世界、鈴木春信「白鷺」と板東玉三郎の舞踊「白鷺」、鍋木清方「道成寺」と板東玉三郎の舞踊						
授業に関連するキーワード	ポッティチェリ	ドビュッシー	ラヴェル	鈴木春信	シャガール	クリムト	
成績評価の方法	出席を前提とした、3回のレポート（授業5回につき1回のレポート）の評価100%						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参考書	『象徴主義と世紀末芸術』		種村季弘訳			
	参考書	『ピエスリーと世紀末』		阿村錠一郎著			
	参考書	『名画を見る眼』		高階秀爾著			
	参考書	『ルネサンスの光と闇』		高階秀爾著			
教科書・参考書等に関する記述欄	毎回の講義に用いるため作成したプリントを配布する。						
自由記述欄							

科目コード	5110190			時間数	30		
授業科目名	倫理と人間 - 人間とは何か -			開講学期等	1期		
授業科目名英字	Human Ethics: What is Human Being?						
備考	授業の形式			講義	必修・選択		選択
	受講対象学生			全学部 1～4年			
内容的に密接に関係する授業科目	倫理学概論、西洋倫理思想史、比較倫理思想史、比較思想論			履修する際に前提とする授業科目	特になし		
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
立花希一	教育文化学部	教文3-127	2608				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	火曜日 7 8 限（その他、授業、会議）		【場所】	研究室		
授業の目的				授業の到達目標			
人間と人間社会に対する理解をめざす。				人間や人間社会に対するアプローチや見解の多様性を知り、自己の人間観、社会観を形成する足掛かりをつかむ。			
カリキュラム上の位置付け	民主主義社会においては個々人が自分なりの見識をもつことが求められるが、そうした市民たるに必要な教養教育科目である。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>授業の内容は概ね以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（教養教育と専門教育） 2. 3. 4. 定義（分類）、存在について 5. 6. 人間とは（1）機械としての人間 7. 8. 人間とは（2）生物としての人間 9. 10. 心の出現（創発） 11. 人間とは（3）理性的存在者としての人間 12. 人間とは（4）自然と人為 13. 人間とは（5）個人と社会 14. 人間とは（6）人間と教育 15. テスト 16. テスト返却（解説） 						
授業に関連するキーワード	人間	動物	自律	理性	自然と人為	社会	自己
成績評価の方法	10回以上の出席で、期末試験を受ける資格が生じる。10回未満は自動的に単位取得ができないので注意すること。成績評価は試験による。首尾一貫した思想を自分の言葉でどの位表現できるかが基準となる。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】		
教科書・参考書等に関する記述欄	教科書なし。プリントを用意する。参考文献は多数あるので、講義でプリントを渡す。						
自由記述欄							

科目コード	5110200			時間数	30		
授業科目名	欧米の歴史			開講学期等	1期		
授業科目名英字	Introduction to European and American History						
備考	授業の形式			講義	必修・選択		選択
	受講対象学生			全学部 1～4年			
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目						
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
佐藤 猛	教育文化学部・欧米文化	教3-236	2666				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜14:30～16:00		【場所】	研究室(3-236)		
授業の目的				授業の到達目標			
グローバル化の進展のなかで揺れ動く「国家」と「国民」という現代社会の枠組みを、ヨーロッパの歴史という視点から、いま一度みつめ直すことを目的とする。				その具体的な題材として、中世ヨーロッパにおける国家の誕生、とくにイングランドとフランスの成立、絡み合い、分離の歴史を理解することを通じて、 (1) 中世ヨーロッパにおける国家形成の基本的な特質を、具体的に説明することができる。 (2) 近現代社会の基本的な枠組である「国民」と「国家」のあり方を、いま一度みつめ直す視点を獲得する。			
カリキュラム上の位置付け	目的主題別科目「人間発達と文化」の授業として、欧米社会が人類とその文化の発達に欠くことのできない役割を果たしてきたことをふまえ、その歴史の一側面を学ぶ。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要：中世ヨーロッパにおける国家形成 英仏の成立、絡み合い、分離】 わたし達もよく知るヨーロッパの国々にはいつ頃から生まれ、イングランドやフランスといった国名や、その住民であるという国民意識、また国境はどのような過程で形成されたのか？ 現代世界はグローバル化のなか、国境がなくなりつつあるといわれる。このなかで「国家」および「国民」の行方やあり方が今まで以上に問われている。それゆえ、国家形成の歴史的背景を理解することは、現代を生きるわたし達の実践的な課題でもある。</p> <p>【進行予定】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業テーマの意義および到達目標の解説 2～3 古代ローマ帝国の地名を受け継ぐ中世諸地域・王国 【1～4世紀】 4～5 イングランドとフランスの原型～中世諸王国の誕生～ 【8～11世紀】 6～7 英仏王権の絡み合い(1)～封建制度の形成～ 【12世紀】 8～9 英仏王権の絡み合い(2)～戦争・同盟・婚姻関係～ 【13世紀】 10～11 英仏分離の兆し(1)～百年戦争はなぜ生じたか？～ 【13・14世紀】 12～13 英仏分離の兆し(2)～「王朝」間の紛争から「王国」・「臣民」間の対立へ～ 【14・15世紀】 14～15 英仏はいつから別個の国といえるのか？～国民意識の芽ばえ～ 【15・16世紀】 <p>【進め方】 講義形式で進め、各回の問題提起と内容の解説は板書で行う。しかし、フランスを中心に現地では撮影した画像を示すため、毎回、プリントの配布と画像の提示を心がける。またテーマの区切りごとに、授業の内容に関わる事柄について回答をもとめ、課題あるいは宿題として提出してもらう。</p>						
授業に関連するキーワード	ローマ帝国	「ゲルマン民族」の移動		キリスト教会			
	封建制度	王朝と王位継承		百年戦争			
	国民意識						
成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 試験期間に行う試験：60% 2 テーマごとに行うアンケートた授業外の学習を含めた通常点：40% <p>1+2を点数化して、60%に満たない者を不可とする</p>						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	特になし(毎回プリントを配布し、そのなかで参考図書にふれる)						
自由記述欄							

科目コード	5110220			時間数	30	
授業科目名	哲学の世界II - 科学史・科学哲学 -			開講学期等	1期	
授業科目名英字	Philosophy II: History and Philosophy of Science					
備考	授業の形式		講義		必修・選択	選択
	受講対象学生		全学部 1～4年			
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目					
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】
勝守 真	国際コミュニケーション	教育文化学部	3018-889-2648			
オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜日14:30-16:00		【場所】	研究室	
授業の目的				授業の到達目標		
				「人が旅をするのは、到達するためではなく、旅をするためである」(ゲーテ)。		
カリキュラム上の位置付け						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>雨はなぜ降るか? 「水蒸気が凝結して水滴(氷滴)が集まり、重力の作用で……」というのが、科学的に正しい説明だとされる。しかし、たとえば、「雨が降るのは、大地がうるおって草木が育つためだ」と答えてはいけないのだろうか? 近代以前の人々、たとえば古代ギリシャ人の多くは、そのように答えただろう。とすれば、近代科学的な自然の見かたは、いったいいつ、どのようにして成立したのか? また、それは今日の世界をどのように形づくっているのか? この授業では、古代・中世の自然観と比較しながら、自然を「機械」のように数理的にとらえる近代科学の特質に注目する。さらに、近代科学の歩みを現在までたどり、とくに20世紀のアインシュタインやボーアの思想を取り上げて考察する。</p> <p>文系・理系を問わず、考えるのが好きな人を歓迎します。</p> <p>健康と環境のため、冷房の使用をできるかぎり控えます。そのため、数回の補講を行ったうえで、学期の終了以前(とても暑くなる前)に授業を終え、試験を行う可能性があります。</p>					
授業に関連するキーワード						
成績評価の方法	試験(論述式)					
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】
	参考書	『図解雑学哲学』		廣成人	イッヅメ社	
	参考書	『ソライエの世界』		白川デル	NHK出版	
	参考書	『思想史のなかの科学』		伊東俊太郎他	平凡社	
教科書・参考書等に関する記述欄						
自由記述欄						

科目コード	5110260			時間数	30時間		
授業科目名	障害と共生I - 福祉と人権 -			開講学期等	1期		
授業科目名英字	Meinstreaming of People with Disabilities Disabilities and co-existence						
備考	授業の形式			講義	必修・選択		選択
	受講対象学生			全学部 1～4年			
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目						
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
内海 淳	障害児教育講座	A-511	2548				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	12:00～13:00		【場所】			
授業の目的				授業の到達目標			
1) 障害者及び障害者福祉の基礎的理解をする。 2) 障害者の権利擁護の意義を理解する。				1) 障害者問題は身近な問題であることを説明できる。 2) ノーマライゼーションの意味を説明できる。 3) 障害者福祉の特質と仕組みを説明できる。 4) 人権侵害の背景と権利擁護の在り方を説明できる。 5) 当事者活動の意義を説明できる。			
カリキュラム上の位置付け							
授業の概要と進行予定及び進め方	1. 福祉の概念と障害者の実態 2. 「障害」の捉え方 3. 福祉の理念 4. 障害者施策に関する動向 5. 障害福祉の枠組み 6. 障害者の地域生活 7. 障害者の地域生活 8. 障害者の就労 9. 障害者の就労 10. 障害者の人権 11. 障害者の人権 12. 障害福祉の課題 13. 障害福祉の課題 14. 障害福祉の課題 15. まとめ						
授業に関連するキーワード	福祉 福祉理念	障害者 人権	障害概念				
成績評価の方法	出席状況及びレポート						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】		
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5110270			時間数	30		
授業科目名	障害と共生II - 自立と暮らし -		開講学期等	1期	時間割	1期 火3・4	
授業科目名英字	Mainstreaming of People with Disabilities II: Disability and Coexistence - Independent Living -						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1～3学年				
内容的に密接に関係する授業科目	「障害と共生I」と関連する授業である。		履修する際に前提とする授業科目				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
大城英名	教育文化学部	教文4-	2534				
オフィスアワー		【曜日及び時間】	講義時間以外随時	【場所】	大城研究室		
授業の目的				授業の到達目標			
障害があってもなくても、みんなと共に暮らし、働き、生きていくことのできる「共生の社会」のたいせつさを理解する。				1)障害のある人びとにとっての「自立」とは何か理解することができる。 2)障害のある人もない人も「共に生きる社会」がノーマルであることを理解することができる。 3)障害の「医学モデル」のみならず「社会モデル」の重要性について説明することができる。			
カリキュラム上の位置付け	教養教育科目「人間と人権」の「障害と共生」の1つとして設定。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>授業では、障害のある人々が社会で自立的に生きていくドキュメンタリーを取り上げながら、障害がある人々もない人々も「共に生きる社会」が大切であることの理解を深める。</p> <p>第1回 障害があってもなくても：障害とは何か、自立とは何か 第2回 障害があってもなくても：ヘレン・ケラー ナターシャ・クルイラトワほか 第3回 障害があってもなくても：高橋竹山（津軽三味線奏者）・小林ハル 第4回 共生への道：出会わなければはじまらない 第5回 共生への道：自立へのはばたき 第6回 共に育つ：母よ嘆くなかれ（パール・バック、「大地」） 第7回 共に育つ：親、兄弟、家族の悩みと喜び 第8回 支えあう社会：全盲の夫婦の子育て 第9回 支えあう社会：知的障害の夫婦の結婚 第10回 地域で共に暮らす：家族とくらす 第11回 地域で共に暮らす：グループホーム・施設でくらす 第12回 地域で共に暮らす：ひとりでくらす 第13回 地域で共に暮らす：夫婦でくらす 第14回 共に働く：あなたと一緒に働きたい 第15回 共に働く：働くことと生きること</p> <p>* 授業の実施順序および内容を若干変更するときがある。</p>						
授業に関連するキーワード	障害	共生	ノーマライゼーション	自立生活	地域生活	就労	
成績評価の方法	出席状況40%、毎回の小レポート60%、総合的に評価し60点以上を合格とする。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
		『母よ嘆くなかれ』		パール・バック	法政大学出版		
		『奇跡の人』		ヘレン・ケラー	新潮文庫		
		『ダウン症の子をもちて』		松村公宏	新潮文庫		
	『津軽三味線ひとり旅』		高橋竹山	甲英文庫			
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5120017			時間数			
授業科目名	教養ゼミナール1 - 生命科学への招待 -			開講学期等	1期後半	時間割	1期後半 金
授業科目名英字	The World of Life Science						
備考	カレッジプラザで開講 講義時間：17:30～19:00			授業の形式	講義	必修・選択	
				受講対象学生	全学部 1・2年		
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目	特になし		
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
伊藤英晃	工学資源学研究科	VBL 教官室 3	018-889-3041		工学資源学部 生命化学		
オフィスアワー	【曜日及び時間】	適宜対応		【場所】	VBL 教官室 3		
	授業の目的			授業の到達目標			
	生命科学の基礎を理解する			生命科学の基礎反応を説明できる			
カリキュラム上の位置付け	高大連携授業の一環として位置づける						
授業の概要と進行予定及び進め方	第1回 生物の進化 第2回 動物細胞の小器官 第3回 減数分裂と遺伝子 第4回 染色体-DNA 第5回 タンパク質 第6回 クローンと万能細胞 第7回 iPS細胞 第8回 分子生物学の招待のまとめとレポート作成						
授業に関連するキーワード	細胞	遺伝子	タンパク質	再生医療			
成績評価の方法	出席と試験（またはレポート）で総合的に判断する。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】		
教科書・参考書等に関する記述欄	なし必要資料は配布する。						
自由記述欄	高校生物学 を未履修の前提で、わかりやすく講義する。						

科目コード	5120030			時間数	30		
授業科目名	自然環境と資源I A -地球環境と化学元素-		開講学期等	1期		時間割	1期 月1・2
授業科目名英字	Natural Environment and Resources I: Global Environment and Chemistry A						
備考	授業の形式		講義		必修・選択	選択必修	
	受講対象学生		全学部 1~4年				
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目		特にありません。高校で理科総合Aを履修していれば、化学I,IIを履修していなくても、学習によって理解できる内容です。				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
岩田吉弘	教育文化学部自然環境講	教文3-218	2622				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜日、13時から14時30分まで		【場所】	教文3-218		
授業の目的			授業の到達目標				
地球環境における化学物質の分布と生体内での機能、環境影響についての理解			1, 元素の生成と地球環境での分布について理解し説明できる。 2, 生体内での化学元素の存在量と機能について理解し説明できる。 3, 人間活動により生成した化学物質の環境への影響について理解し説明できる。				
カリキュラム上の位置付け	環境、化学、生命科学を専門とする学生には、地球化学、無機化学、生物無機化学の入門的な内容。それらを専門としない学生には、地球環境と化学の関わりについて教養を高める内容。						
授業の概要と進行予定及び進め方	1, 化学元素の定義と単位、記号 2, 地球の構造 3, 宇宙における元素の生成と存在量 4, 地圏での元素の存在量 5, 大気圏での元素の存在量 6, 水圏、特に海洋における元素の存在量と移動 7, 化学物質の毒性と必須性 8, 生体における元素存在量 9, 生体における化学元素のはたらき（有毒元素） 10, 生体における化学元素のはたらき（必須元素） 11, 有機塩素化合物の構造と化学的特性 12, 人間活動により生成した化学物質の環境への影響（地球温暖化） 13, 人間活動により生成した化学物質の環境への影響（酸性雨） 14, 人間活動により生成した化学物質の環境への影響（オゾン層破壊） 15, 人間活動により生成した化学物質の環境への影響（放射性廃棄物） 16, まとめ						
授業に関連するキーワード	地球環境	生体	有毒元素	大気圏	化学元素	海洋	必須元素
成績評価の方法	授業3回目以降、毎回10分程度のマークシート形式の小試験を行います。 合否：小試験の成績が60%以上を合格とします。 履修放棄：出席日数が2/3に満たない者 成績不振者、無断欠席者に対するレポート提出や再試験等による救済措置は一切行いません。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	参考書・教科書は用いません。プリント、OHP、プロジェクターを利用します。						
自由記述欄							

科目コード	5120050			時間数	1		
授業科目名	天体観測入門 - 太陽・月・惑星 -			開講学期等	1期前半		
授業科目名英字	Introduction to Astronomical Observation:						
備考	受講可能人数は上限25名です。それより受講希望者が多い場合は、初回の授業で受講者を決定します。			授業の形式	演習・実習	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目	なし			履修する際に前提とする授業科目	なし		
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
林 信太郎	教文	3-311	0188892651				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜日 8-10時		【場所】	教育文化学部3-311		
授業の目的				授業の到達目標			
天体に親しみ、惑星科学・宇宙科学の教養レベルの知識を身につける。宇宙空間のスケールの大きさを、理解するとともに実感する。				天体望遠鏡の仕組みについて理解し、天体望遠鏡を操作でき、惑星や月を観察できる。主な惑星の特徴を理解し、説明できる。月の形成史を理解し説明することができる。宇宙の大きさを実感し説明することができる。			
カリキュラム上の位置付け	学問の進展：学生との討議を通じて、人類が未解決の問題について考える。 【解説】実習中、教員－学生あるいは学生－学生間で、宇宙や星、人類に未来について語り合います。人類の宇宙における位置づけについて哲学的に考察するのがこの授業の究極の目的です。						
授業の概要と進行予定及び進め方	天体の状況、天候の状況によって異なってくる。以下の内容と日程（暫定版）を予定している。 水曜日7・8に行なう授業 ・ガイダンス（4月13日；2回（2時30分と3時30分）ガイダンスを行なう；受講希望者多数の場合は抽選で決定） ・天体望遠鏡の使い方（4月20日） ・木星の衛星に関する演習（4月27日,5月11日） ・太陽面観察（4月27日,5月11日） ・太陽の自転に関する演習（5月18日） 夜間あるいは早朝に行なう授業 ・水星、金星、火星、木星の観察（4月29日朝；午前4時集合午前7時解散） ・月の地形と土星の観察（午後6時集合午後9時頃解散；5月9日～5月13日の最初に晴れた夜；晴れなかった場合は翌月の同時期） ・部分日食の観察（6月2日早朝；午前4時集合午前7時解散） ・部分月食の観察（6月16日；各自観察、宿題提出；西日本では皆既月食） 天体の運行状況や天候によって左右されるので、実習が予定通りに進むとは限りません。夜間や早朝の実験が多く、場合によってはアルバイト等に支障を生じる場合もある。天体及び天候の都合を優先し、学生のアルバイトの時間帯は考慮しない（できない）こととする。詳しい日程表は第1回の授業で資料を配布し説明する。 なお、授業の正規の時間帯で行う実習は2時間程度で時間のほとんどは夜間の観測とする。 受講上の注意：望遠鏡で太陽を見ないこと、また、屋上フェンスを越えないこと。 新天体望遠鏡（45cmリッチー・クレチアン式望遠鏡）を活用して実習を行なう。						
授業に関連するキーワード	天体望遠鏡	月	太陽	惑星			
成績評価の方法	レポートによる。 出席数が2/3に満たない場合あるいは平常点が6割に見たない場合は不合格とする。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】			【著者】	【出版社】	【出版年】
	授業の中で紹介する						
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5120060			時間数	30	
授業科目名	地球の環境と資源ⅣA - 地層の話 -			開講学期等	1期	
授業科目名英字	Global Environment and Resources IV B: Introduction to Geological Sciences					
備考	なし			授業の形式	講義	必修・選択
				受講対象学生	全学部 1～4年	
内容的に密接に関係する授業科目	とくになし			履修する際に前提とする授業科目	とくになし	
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】
(責)内田 隆	工学資源学部	工資 2 B304	389-2652	佐藤時幸	工学資源学部	工資 2 G214
大場 司	工学資源学部	工資 2 G307	389-2374			
オフィスアワー	【曜日及び時間】	火曜日12:00～12:30		【場所】	工資 2 B304	
	授業の目的			授業の到達目標		
	地層記録を素材として、地球科学的自然認識方法および地球上に発生する諸現象を学ぶとともに、地球誕生以来の地球史に関する認識を深めることを目的とする。			1) 地層が地球史のデータベースであることを具体例にもとづいて説明できる。 2) 地質学的自然現象認識方法を解説できる。 3) 地球史が単なる漸進的変化ではなく、さまざまなイベントで構成されていることを理解できる。 4) 地震や火山噴火などの地質学的事象の発生を支配している統一的過程について説明できる。 5) 日本列島に自然災害が多発する原因を理解するとともに、日常生活のあり方について考察できる。		
カリキュラム上の位置付け	本講義は目的・主題別科目のうち、「自然環境と地球」を構成する。受講するにあたって高校までの理科に関する平均的知識を必要とするが、特別な予備知識を前提しない。					
授業の概要と進行予定及び進め方	詳細については、初回のガイダンスで説明する。 基礎編 1. ガイダンス 2. 地球の誕生：地球科学の基礎 3. 地層は時計である：地質学的認識の基礎 4. 古生物の進化の記録と地質時代区分：地質時代区分は何を根拠にしているか 5. 年代を測る：地質時代はどのように測定されているか 各論編 6. ワンダフルライフ：カンブリア紀の爆発：高等動物大量出現の何が起こったか 7. 大量絶滅の謎：恐竜やアンモナイトはなぜ一斉に地球上から姿を消したか 8. マグマの働き：火山噴火の正体 9. 火山噴火のタイプ：火山噴火はどのように起こるか 10. 地層の形成と変形、地殻変動：地層のできた構造運動 11. 環境変動はなぜ起きる：地球の気候は驚くほど変化する 12. 地球温暖化は本当か？：地球は生きています 13. 将来のエネルギー？メタンハイドレート：エネルギー資源の救世主になるか 総括編 14. プレートテクトニクス：地球表層で進行している基本過程 15. 地下の地層の状態を探る：地下の地層の様子から地史を解釈しエネルギーを探査する					
授業に関連するキーワード	地質学	古生物(化石)	進化	マグマ	火山噴火	地球環境変遷
成績評価の方法	出席の状況および期末の試験結果で判定する。60点以上を合格とする。					
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	教科書は使用しないが、毎回の講義に資料を配付する。必要に応じて参考書を紹介する。					
自由記述欄						

科目コード	5120070			時間数	15		
授業科目名	地球の環境と資源V - 資源問題と地球環境 -		開講学期等	1期前半	時間割	1期前半 月3・4	
授業科目名英字	Global Environment and Resources V:Problems of Resources and Environment						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目						
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
佐藤 博	地球資源	工資 2-B214	389-2388	杉本文男	地球資源	工資 2-B215	389-2394
大友崇徳	地球資源	工資 2-B207	389-3054	山口伸次	地球資源	工資 2-B206	389-2387
今井忠男	地球資源	工資 2-B214	389-2388	網田和宏	地球資源	工資 2-B212	389-2372
村上英樹	環境資源学研究センター	工資 研-207	389-2446				
オフィスアワー	【曜日及び時間】 月曜 16:00～17:00			【場所】	上記教員室		
授業の目的			授業の到達目標				
<p>私たちが資源を入手し、それを利用するとき何が問題となるか、また資源の開発・消費が地球環境にどのような影響を与えるかを学習する。この問題は、私たちが社会の様々な分野で様々な形で活動するとき、常に何らかの形で関係してくるものであり、そのようなときにどう考えたらよいかを、この授業を通じて理解することを目標とする。</p>			<p>1) 資源と地球環境についての社会的な関心を持つことができる。 2) 資源と地球環境について様々な要因と異なる考え方があることを理解し、その解決手法について自らの意見を説明できる。 3) 社会的な問題である資源と地球環境についての教養とそれに対する自身の意見を持つことができる。</p>				
カリキュラム上の位置付け	教養基礎教育の目標2の「現代の諸課題の認識につながる特色のある科目」に相当する。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>第1回 担当：佐藤 資源・エネルギー開発に伴って発生し、マスコミ等で取り上げられた環境問題を、新聞記事（和文、英文）に基づいて解説する。 第2回 担当：網田 水資源の現状と水質汚染の問題について説明する。 第3回 担当：村上 原子力エネルギーの可能性と問題点について解説する。特にエネルギー政策としての利点、環境への影響、廃棄物処理問題等を中心に説明する。 第4回 担当：山口 石油エネルギーの現状と地球温暖化対策について説明する。 第5回 担当：大友 金属資源から素材を得るまでの製錬プロセスについて解説する。 第6回 担当：杉本 金属資源の開発、輸入、閉山後の環境問題について説明する。 第7回 担当：今井 人はこれまで「どのようにして鉱物を道具として利用してきたか」、「どのようにして有用な鉱物を発見し開発してきたか」、「それらに伴う環境問題とは何であったのか」について、身近な材料や道具を例にとりて考え、説明する。 また、総括レポートの課題について説明する。 第8回 担当：大友 課題レポート提出日</p> <p>なお、都合により上記の講義の順番を入れ替えることもある。</p>						
授業に関連するキーワード	資源の将来	環境・経済倫理	資源リサイクル	エネルギー資源	資源開発の歴史	気候CO2と地球温暖化	
成績評価の方法	各時間での課題レポートおよび総括レポートを総合して評価し、総合60%以上を合格とする。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5120080			時間数	15		
授業科目名	環境と社会 A - 地域環境とインフラストラクチャー -		開講学期等	1期前半	時間割	1期前半 木7・8	
授業科目名英字	Environment and Society A:Regional Environment and Infrastructure						
備考	授業の形式			講義	必修・選択	選択	
	受講対象学生			全学部 1～4年			
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目						
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
木村一裕	工学資源学部	総合研究棟7F	2368	日野 智	工学資源学部	総合研究棟7F	
浜岡秀勝	工学資源学部	総合研究棟7F		川上洵	工学資源学部	工資1-414	
長谷部薫	工学資源学部	工資1-409		徳重英信	工学資源学部	工資1-412	
及川 洋	工学資源学部	工資1-415		松富英夫	工学資源学部	工資1-416	
オフィスアワー	【曜日及び時間】			【場所】			
授業の目的				授業の到達目標			
われわれが日常生活を営んでいる都市や地域社会では、誰もが安全、安心、快適に生活でき、そして美しい空間の創出が望まれる。そのために必要な諸施設を社会資本という。まず、はじめに社会資本について学び、ついでその整備理念と手法について学ぶ。その後具体的な整備例について履修する。				1. 社会資本（インフラストラクチャー）とはどのように分類されるのか理解し、他に説明できるようにする。 2. 地域環境に及ぼす社会資本整備について理解し、他に説明できるようにする。 3. 社会資本整備理念を学び、ついで具体例として、鋼、コンクリート、木材による橋梁、地盤災害、水環境を取り上げ、理解できるようにし、他に説明できるようにする。			
カリキュラム上の位置付け	日常生活に不可欠な社会資本整備について履修し、その整備手法について習得することを目的とする講義である。						
授業の概要と進行予定及び進め方	第1回：社会基盤施設とは何か、その分類と整備理念について 第2回：持続可能な都市・地域について 第3回：環境に配慮した交通について 第4～6回：社会基盤整備の中の鋼・木・コンクリート材料について 第7～8回：地盤災害と水環境						
授業に関連するキーワード	社会基盤	建設材料	水環境	社会資本整備の理念	建設構造物	都市と交通	地盤災害
成績評価の方法	レポート（80％）、出席状況等（20％）を考慮して総合的に評価する。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5120100			時間数			
授業科目名	ライフサイエンスIIIA			開講学期等	1期後半		
授業科目名英字	Life Science IIIA			時間割	1期後半 火5・6		
備考				授業の形式	講義・演習	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
河又邦彦	教育文化学部	教育文化4号館	018-889-2590				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	随時		【場所】	教育文化4号館312号室		
授業の目的				授業の到達目標			
メンデル遺伝を理解する。				1) 遺伝子および形質とタンパク質の関係を理解する。 2) 染色体の挙動を説明できる。 3) 簡単な入試問題を解くことができる。			
カリキュラム上の位置付け	教養教育						
授業の概要と進行予定及び進め方	1) 身の回りの遺伝現象 2) 形質とは 3) 遺伝子とタンパク質 4) メンデル遺伝の法則 5) 染色体の挙動 6) 性染色体と遺伝子						
授業に関連するキーワード	メンデル遺伝	減数分裂	形質	染色体	伴性遺伝	タンパク質	DNA
成績評価の方法	課題，試験により判定する。3回以上休んだ場合は再履修となる。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】			【著者】	【出版社】	【出版年】
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5120110			時間数	30		
授業科目名	生活の科学I - 衣生活の科学 -			開講学期等	1期		
授業科目名英字	Family and Consumer Science I:Clothing for Qualitlital Life						
備考	授業の形式			講義	必修・選択		選択
	受講対象学生			全学部 1～4年			
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目						
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
石黒純一	教育文化	教文1-304	389-2551				
オフィスアワー 【曜日及び時間】 金曜日、15:00～17:00 【場所】 教文1-304							
授業の目的				授業の到達目標			
衣服の性能と着衣の目的を理解し、生活の場において適切な衣服の選択と着用ができるようになる				衣服の材料としての繊維・糸・布の関係を説明できる。 表現として衣服を着る場合のポイントの説明ができる。 防御のために衣服を着る場合のポイントの説明ができる。 現在の自分の着衣状態について説明と評価ができる。 他人の着衣状態について説明と評価ができる。			
カリキュラム上の位置付け	「着る人」を前提にして我々の感性に密着した現代課題としての科学・技術を考えたい。						
授業の概要と進行予定及び進め方	衣服に対する消費者の要求を次の8点にまとめ、それぞれについて、本講義の到達目標に則し、その要求内容、要求を満たすための衣服の性能とその実現状況について、それぞれ解説する。 (0) ガイダンス 我々の衣生活システム(一回) (1) 衣服の外観 - 衣服が表現するもの - (三回) (2) 衣服の着心地 - 我々が衣服に求めるもの - (二回) (3) 取扱易さ - 繰り返し着用できる衣服 - (二回) (4) 形態安定性 - 古くなる衣服 - (二回) (5) 環境形成 - 衣服は我々の体の回りに微小環境を作る(二回) (6) 安全性 - 製造物の安全性 - (一回) (7) 経済性 - 格安品から高級ブランド品まで - (一回) (8) 環境保全性 - 循環型社会における衣服の使用 - (一回)						
授業に関連するキーワード	衣生活		アパレル		快適性		
成績評価の方法	評価方法：定期試験70%，講義に際し適宜行う小テスト(30%)。 判定基準：指定する内容が回答されているか。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】			【著者】	【出版社】	【出版年】
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5120130			時間数	15		
授業科目名	化学の世界 A - 最新の化学 -			開講学期等	1期後半		
授業科目名英字	The Chemical World A			時間割	1期後半 火5・6		
備考				授業の形式	講義		
				必修・選択	選択		
内容的に密接に関係する授業科目	入門化学			受講対象学生	全学部 1~4年		
履修する際に前提とする授業科目							
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
中田真一	環境応用化学科	工賃4-210	2437 (090-	小笠原正剛	環境応用化学科	工賃4-214	2445
松本和也	環境応用化学科	工賃4-302	2443				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜日 11:00~13:00		【場所】	工賃4-210(中田)		
	授業の目的			授業の到達目標			
	現代社会で話題になっている科学技術や身のまわりの物質について、「化学」が身近なところであり、「ものづくり」において「環境に配慮した化学」(グリーンケミストリー)が基本になっていること、また環境問題を解決していくのも「化学の力」であることを学ぶ。			[1]有機・高分子化学、無機化学、プロセス化学、環境化学の身近な話題を取り上げることができる。 [2]化学的な考え方で身のまわりの物質やプロセス、システムについて説明できる。 [3]「化学物質」の正しい管理や使用方法について、いくつか例示して説明できる。			
カリキュラム上の位置付け	化学という学問への導入教育の一つであり、化学への興味を喚起するために開講する。						
授業の概要と進行予定及び進め方	以下の内容に関して3名の教員が分担して講義する。なお下記は予定であり、講師や順番の変更がある場合は適時連絡する。 [1]化学の眼で見る石油とその代替燃料(化学的視点で見た身近なエネルギーについて) [2]「分子」を見よう、扱おう、つくろう!!(化学概論) [3]結晶性無機化合物の合成と構造解析(無機プロセス化学) [4]無機系多孔質材料の現状とこれから(無機化学の応用) < [1]~[4]の内容についてのレポート課題 > [5]有機・高分子化学概論 [6]身の周りの有機化合物 [7]現代社会を支える高分子化合物 [8]環境問題と高分子材料、化学物質の安全管理、講義のまとめ < [5]~[8]の内容についてのレポート課題 >						
授業に関連するキーワード	分子・原子	高分子化学	化学プロセス	分析化学	無機化学	グリーンケミストリー(6C)	有機化学 生化学 エネルギー
成績評価の方法	2回の課題レポートにより評価する。(詳しくは最初の授業で説明する。)						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】			【著者】	【出版社】	【出版年】
	参考書	『材料化学の最前線』			信都大学東京都市環境学部分子応用化学研究	講談社	2010年
	参考書	『知っておきたい有機化合物の動き』			齋藤勝裕著	ソフトバンククリエイティブ	2011年
	参考書	『チャレンジ化学』			水谷広著	三井出版	2010年
	参考書	『世界で一番美しい元素図鑑』			F.Gray著、若林文高監修	創元社	2010年
参考書	『化学環境学』			脚園生誠著	環華房	2007年	
教科書・参考書等に関する記述欄	教科書は使用しない。プリント配布。PC、DVD、ビデオなども使用する。参考書として、上記のほかに『商品から学ぶ化学の基礎』,松田勝彦著,化学同人(2011年);『元素検定』,桜井弘他著,化学同人(2011) など						
自由記述欄	分子や原子を操るのが「化学」である。楽しみながら一緒に「化学」を学ぼう!						

科目コード	5120140			時間数	15		
授業科目名	材料の世界 - 暮らしと材料 -			開講学期等	1期後半		
授業科目名英字	Materials Science: The World of Materials ; Human Life and Materials						
備考	授業の形式			講義	必修・選択		選択
	受講対象学生			全学部 1~4年			
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目						
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
小玉展宏	工学資源学部	教文3-	2650	原基	工学資源学部	工資3-	2414
麻生節夫	工学資源学部	工資3-	2413				
オフィスアワー	【曜日及び時間】 火曜 7.8時限もしくは予約すれば			【場所】	各教官室		
授業の目的				授業の到達目標			
今日の生活と暮らしの中に、深く入り込んでいる種々の材料と資源・環境・エネルギー問題との関連を取り上げる。特に、エネルギー変換材料、光学材料などの機能材料および鉄鋼材料などの構造材料に焦点を当て、それらの働きと応用例を講義する。 1) 資源・環境・エネルギー問題に対する材料と材料技術の役割を理解する。 2) 金属・半導体・セラミックスの一般的性質を理解する。 3) 金属・半導体・セラミックスの応用例を理解する。				1) 資源・環境・エネルギー問題に対する材料と材料技術の役割を説明できる。 2) 金属・半導体・セラミックスの一般的性質を説明できる。 3) 金属・半導体・セラミックスの合成・加工法と応用例を説明できる。			
カリキュラム上の位置付け	材料工学・材料科学を理解するための導入科目である。						
授業の概要と進行予定及び進め方	工学資源学部材料工学科3人の教員が各自の専門に近い内容を交代で講義する。 1. 光学材料(小玉展宏) 携帯電話や薄型テレビ(プラズマおよび液晶ディスプレイ、有機EL)、また次世代照明などに使われる発光ダイオード、蛍光体、液晶などの光学材料の機能と役割を理解する。併せて、エネルギー・環境・元素資源の問題と光学材料との関連を理解する。 1) 光学機能(発光・吸収現象)の基礎と発光ダイオードと蛍光体による発光のデモ 2) 発光材料の役割とディスプレイへの応用、エネルギー問題との関連を説明する。 2. エネルギー変換材料(原基) 化学、原子力、光などの各種エネルギーは最も使いやすいエネルギー形態である電気エネルギーに変換されて使用されている。本講義では、いろいろなエネルギー変換において重要な役割をする材料についてその概要を講義する。 1) 我が国で最も電力供給量の多い熱機関で使用される熱エネルギー/機械エネルギー変換材料について講義する。 2) 将来のクリーンエネルギー源として注目される太陽電池、燃料電池において重要な役割を果たしている材料について講義する。 3. 鉄鋼材料(麻生節夫) 我々の日常を支えている鉄鋼材料の基礎と応用について講義する。 1) 自動車に使われている鉄とい鋼がなぜそこに使われているかについて説明する。 2) 鉄鋼材料に不可欠な熱処理について、日本刀を例に説明する。						
授業に関連するキーワード	エネルギー	金属材料	耐熱材料	光学材料	鉄鋼材料	環境	元素資源
成績評価の方法	達成目標についてレポート提出を求め、各達成目標の達成率を評価する。 具体的には、3つの講義分野の中から、各々出された課題のうち、1題を選択して指定された期日までにレポートを提出する。・・・(到達目標1, 2, 3) 成績はレポート(100%)により評価し、全ての達成目標に60%以上の評価を得た者を合格とする。欠席がいずれかの講義について2回もしくは合計3回に達したものは放棄とみなす。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参考書	『発光・照明材料』		日本セラミックス協会	日刊工業新聞社	2010年	
教科書・参考書等に関する記述欄	プリントを配布あるいはプロジェクターを使用する。機能材料を使った実際の製品を一部紹介する。						
自由記述欄							

授業科目名	和文：情報工学の世界 A - 現代情報技術の実際 - 英文：				時間割	木 7-8
科目コード	512-0150	必修・選択		単位・時間数	1・	開設学期等
受講対象学生	全学部 1～4 年					
授業の形式	講義	備考				
履修する際に前提とする授業科目名	特になし					
内容的に密接に関係する授業科目名	特になし					
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号		担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
責:山村明弘	情報工学科	工資 V - 310・2799		橋本仁	情報工学科	総合研究棟 3F 教員室・2780
横山 洋之	情報工学科	工資 V - 507・2776		高谷真弓	情報工学科	工資 V - 309・2784
五十嵐隆治	情報工学科	総合研究棟 3F 教員室・2963		景山陽一	情報工学科	工資 V - 406・2786
山口邦彦	情報工学科	合研究棟 3F 教員室・2477				
オフィスアワー 曜日及び時間：授業時に通知する				場所：各教員室		
授業の目的及び到達目標 1. 目的 現在、情報通信技術（ICT）は日常的にあらゆる分野で利用されている。その中の幾つかの課題に関する技術的な背景と活用状況を具体的に知ることによって、ICT の実際を理解する。 2. 到達目標 1) 情報通信技術について説明できる。 2) 情報通信技術が、社会においてどのように活用されているのかを説明できる。 3) 情報通信技術と私達の身近な生活との関わりを列挙できる。 4) 情報通信技術の具体的な長所と短所をそれぞれ列挙できる。 5) 現状と比較し、情報通信技術の将来について自分なりの考えを説明できる。						
カリキュラム上の位置付け 教養基礎教育の目標「6. 本学に所属する教員の固有の専門的力量を、教養教育にも十分に発揮できるカリキュラム体制を目指し、それによる特色と効果を創出する」と深く関わる科目。また、目的・主題別としては、「学問の方法」を重視する。						
授業の概要と進行予定及び進め方 1. リモートセンシングの世界 ・リモートセンシングとは何か ・宇宙から見た地球の現状 ・見えるもの、見えないもの ・過去から現在、未来へ：得られる情報の活用 2. XML：電子社会を構築する技術 ・XML とは ・XML 関連技術 ・XML 適用事例 3. コンピュータの高信頼化技術 ・高信頼コンピュータの基本的考え方 ・フォールトトレラントシステム ・L S I の高信頼化、テスト 4. トラヒックエンジニアリング技術 ・トラヒックとその特徴 ・トラヒックと通信品質 ・経路制御：最短経路とトラヒック平滑化 5. デジタル信号と情報通信技術 ・デジタルとアナログ ・信号伝送（情報の伝送） ・信号の変調と復調 6. 半導体から集積回路へ ・半導体の歴史 ・半導体とはなにか ・集積回路とはなにか 7. クラウドコンピューティング ・クラウドの実際 ・仮想化技術 ・スマートグリッド 8. まとめ・試験						
授業に関連するキーワード	リモートセンシング	電子社会	フォールトトレラントシステム			
トラヒックエンジニアリング	デジタル信号	半導体	クラウドコンピューティング			
成績評価の方法及び可否判定基準 授業最終回の試験により評価する。 7 回の授業のうち 5 回以上授業に出席しない場合は単位を認めない。						
教科書・参考書等 適宜、資料を配布する。						

科目コード	5120160			時間数	30		
授業科目名	コンピュータの科学IA - コンピュータ科学の基礎 -		開講学期等	1期	時間割	1期 火3・4	
授業科目名英字	Computer Science IA: Fundamentals on Computer Science						
備考	授業の形式			講義	必修・選択		
	受講対象学生			全学部 1～4年			
内容的に密接に関係する授業科目	コンピュータの科学II			履修する際に前提とする授業科目	特になし		
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
林 良雄	教育文化学部	教文4 - 414					
オフィスアワー	【曜日及び時間】 火 14:30～16:00			【場所】	教文4 - 414		
授業の目的				授業の到達目標			
コンピュータ科学の入門として、コンピュータ内部でのデータ表現および動作原理について理解する。				データのデジタル化について説明できる。 コンピュータ内部でのデータ表現が説明できる。 ブール代数の操作ができる 組み合わせ・順序論理回路について説明ができる。			
カリキュラム上の位置付け	本講義は情報処理技術を習得する基礎教育として、重要なコンピュータの動作に関する基礎的知識を習得させるものである。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>授業概要は以下のとおりに進める。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 基礎知識 第3回 デジタル化について 第4～8回 データ表現について 第8～12回 ブール代数と組み合わせ論理回路について 第13～15回 順序論理回路について</p> <p>全て講義で行い、板書を中心とするが、補助的にeラーニング教材も利用する。 授業の初めには前回の内容の復習テストを行う。また4、5、6の最後には小テストを行う。 基本的には教科書に従って行う。教科書巻末の演習問題は全ておこなっておくこと。また、授業外では下記の参考書や教科書で紹介されている文献を読んでおくことと理解が進む。</p>						
授業に関連するキーワード	デジタル	ブール代数	論理回路	アニメキデクチャ	データ表現		
成績評価の方法	成績評価は復習問題の提出状況と3回の小テスト及びデジタル教材による学習を合計した点数で行う。 ・毎回授業の最初に前回の授業の内容の復習テストを行い、その場で回収する。合計30点 ・小テストは2回以上受けるものとし、2回未満のものはDとみなす。なおテスト時に欠席したものの再試験は行わないものとする。合計60点 ・デジタル教材による学習をどの程度行ったかにより10点						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	教科書	『計算機科学の基礎』		八村広三郎	近代科学社	1989	
	参考書	『コンピュータのしくみを理解するための10章』		馬場敬信	技術評論社	2005	
	参考書	『コンピュータ解体新書』		清水忠昭・菅田一博	マイエンス社		
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5120170			時間数	30		
授業科目名	コンピュータの科学IIA - グラフとアルゴリズム -		開講学期等	1期	時間割	1期 水5・6	
授業科目名英字	Computer Science IIA:Graph and Algorithm						
備考				授業の形式	必修・選択		
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目	コンピュータの科学			履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
上田晴彦	教育文化学部	4-412・2765	2765				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜日 午後2時30分～午後5時		【場所】	4-412		
授業の目的				授業の到達目標			
<p>グラフ理論は、コンピュータ科学・自然科学・純粋数学・社会科学等の様々な分野での基礎的理論となっている。今後専門課程においてより高度な学問を理解する上でも、またコンピュータ科学への興味を喚起する上でも欠かすことの出来ないものである。本授業では、この魅力的なグラフ理論についての基礎事項を論述する。さらにグラフに関するアルゴリズムを学習することで、コンピュータ科学に対する理解を深める。</p>				<p>以下の2点を到達目標とする。</p> <p>1) グラフ理論の基礎事項を理解する。 2) アルゴリズムへの応用が出来るようになる</p>			
カリキュラム上の位置付け	<p>グラフおよびアルゴリズムは、コンピュータ科学を専門とする学生だけでなく、他の分野に興味をもつ学生にも十分に役立つ重要な基礎的理論である。本講義では、今後自然科学・社会科学の専門課程に進む学生に対して、将来要求される基礎的概念を身に付けることをカリキュラム上の位置づけとする。</p>						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>グラフ理論とそれに関連するアルゴリズムについて、系統立てて論述する。具体的には以下の順に講義を進める。</p> <p>1) グラフ理論の基礎 1. グラフとはなにか 2. 木・連結性・分割 3. 周遊・線グラフ 4. 被覆・平面グラフ・4色定理 5. 色分け可能性・グラフと行列 6. グラフと群・有向グラフ</p> <p>2) アルゴリズムへの応用 7. アルゴリズムの基礎 8. アルゴリズムとデータ構造 9. アルゴリズムと木 10. アルゴリズムと有向グラフ 11. アルゴリズムと無向グラフ 12. アルゴリズムとオイラー・ハミルトングラフ</p> <p>3) まとめ 13. まとめと試験対策</p>						
授業に関連するキーワード	コンピュータ科学	グラフ理論	アルゴリズム				
成績評価の方法	レポート(20%)、試験(80%) 総合60%を合格とする。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】		
教科書・参考書等に関する記述欄	教科書は用いず、講義用プリントを配布する。第2回以後に初めて受講するものは、事前に講義用プリントを教員研究室まで取りに来ること。						
自由記述欄							

科目コード	5140030			時間数	30		
授業科目名	社会と地域A - 都市社会学の基礎 -			開講学期等	1期		
授業科目名英字	Society and Community A: Introduction to the Urban Sociology						
備考	授業の形式			講義	必修・選択	選択	
	受講対象学生			全学部 1~4年			
内容的に密接に係る授業科目	(「教養基礎教育」では特になし)			履修する際に前提とする授業科目	(特になし)		
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
和泉 浩	教育文化学部	018-889-2649	018-889-2649			e-mail:	
オフィスアワー	【曜日及び時間】 火曜昼休み、木曜7・8限、研究室			【場所】	教育文化学部3号館322		
授業の目的				授業の到達目標			
現代における地域と社会の諸問題・諸現象を社会的視点からとらるために、社会学の考え方、特に都市社会学の基本的な理論と今日の理論展開について学ぶ。				1. 社会学とは、どのような学問なのか理解する。 2. 都市社会学のこれまでの基礎的な理論と理論潮流および「空間論的転回」以降の社会学と地理学の理論状況等を理解する。			
カリキュラム上の位置付け	都市社会学、社会学一般の基礎となる授業で、特に他の授業の履修を前提にするものではありません。ただし、さまざまな理論を取りあげるので、抽象的で難しい内容も含まれます						
授業の概要と進行予定及び進め方	授業予定(以下の各講での内容は、授業の進み具合などにより変更します)。 第1講 授業についての説明 第2講 現代社会と社会学 第3講 啓蒙主義、近代科学と社会学 第4講 国民国家の形成と社会科学 第5講 産業革命と都市化 第6講 消費社会と都市 第7講 都市衛生と近代都市 第8講 国際化、グローバル化と都市 第9講 都市とモダニズムとポストモダニズム 第10講 都市とユニバーサルデザイン 第11講 都市社会学の主要な理論の潮流 第12講 「空間論的転回」以降の社会学と地理学1 第13講 「空間論的転回」以降の社会学と地理学2 第14講 シカゴ学派の都市社会学 第15講 ジンメル都市論						
授業に関連するキーワード	社会学	都市	地域	空間論的転回	社会理論		
成績評価の方法	授業に関連する内容についての小テスト(複数回の場合あり)とレポートで成績を評価します。 ・小テスト(40点): 授業内容について理解しているかの確認 ・レポート(60点): 授業の内容をふまえ、社会学の視点を理解し、自分の議論を展開できるかをみる課題を出します。 小テストおよびレポートの課題については授業内でのみ説明を行い、それ以外、掲示や、欠席した場合の個人的な問い合わせに対する説明などは行いません。授業を欠席する場合は、欠席届けを提出してください。 レポートは締め切り厳守で、締め切り日「時」をすぎたレポートは評価の対象外にします。またほぼ同一内容のレポートがあった場合、またネット						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】			【著者】	【出版社】	【出版年】
	教科書と参考文献(和書および英語の文献)は、授業の内容に						
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5140040			時間数			
授業科目名	地理と地誌I - 地誌学入門 -			開講学期等	1期	時間割	1期 金3・4
授業科目名英字	Regional Geography I: Introduction to Regional Geography						
備考	小テスト4回以上適宜			授業の形式	講義・実習	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目	自然地理学入門、自然地理学概論、人文地理学入門、人文地理学概論、地誌学概論			履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
篠原秀一	教育文化・文化環境	教3-335	018-889-2663				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	平日午後随時		【場所】	教育文化3号館335研究室		
	授業の目的			授業の到達目標			
	1) 地図、とくに地形図に親しむ。 2) 地理写真あるいは地誌に親しむ。 3) 地誌および地誌学の基本を学ぶ。			1) 地誌の意味と役割を簡単なから説明できる。 2) 様々な地図、特に地形図から地誌的基本情報を解読できる。 3) 様々な地理写真の地誌的内容を簡単なから説明できる。			
カリキュラム上の位置付け	地誌学・人文地理学・自然地理学の地理学全般にかかわる導入授業の1つでもあり、「地誌学概論」へと続くものである。						
授業の概要と進行予定及び進め方	様々な地図と地理写真を題材として、地誌学の基本的な知識、地域のとらえ方を習得する。配布プリントと板書を中心とし、地図・地理写真・地誌の現物も回覧して講義する。作業学習および質疑応答の時間も含む。12色鉛筆が必要となる。2万5千分の1地形図1枚(270円)の購入を求めることもある。。講義内容は以下の通りだが、4回目または5回目以降の授業から、地形図の読解に関する作業実習を毎回最後の30分ほどで実施する。						
	1. 多種多様な地図 1) 地誌と地図のある生活 2. 多種多様な地図 2) 地図の定義と種類・分類 (1) 地図の定義 3. 多種多様な地図 2) 地図の定義と種類・分類 (2) 地図の種類と分類 4. 多種多様な地図 3) 地図の構成と作成 5. 地図の整備・図式・活用 1) 地図の整備 (1) 地図の歴史 6. 地図の整備・図式・活用 1) 地図の整備 (2) 近代的な地形図の整備 7. 地図の整備・図式・活用 2) 地形図の図式 (1) 地形図の整飾 8. 地図の整備・図式・活用 2) 地形図の図式 (2) 地形図の点・線記号 9. 地図の整備・図式・活用 2) 地形図の図式 (3) 地形図の点面表現 10. 地図の整備・図式・活用 3) 地図の活用 (1) 地図の利用選択 11. 地図の整備・図式・活用 3) 地図の活用 (2) 地形図の基本的読図 12. 地図の整備・図式・活用 3) 地図の活用 (3) 地形図の総合的読図 13. 地理写真と写真地誌 1) 地理写真とは 14. 地理写真と写真地誌 2) 地理写真を読む 15. 地理写真と写真地誌 3) 写真地誌 16. 期末試験・レポート提出						
授業に関連するキーワード	地図	地形図	読図	地理写真	地誌		
成績評価の方法	授業中の質疑応答と出席状況をふまえ、筆記試験(60%)、レポート(40%)により総合的に評価する。原則として3回以上の欠席を認めない。総合的に評価して100点満点で60点以上を合格(「C」以上の評価)とする。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	教科書	『地形図の手引き(五訂版)』		日本地図センター	日本地図センター	2005年	
教科書・参考書等に関する記述欄	参考書は授業時に随時紹介する。						
自由記述欄							

科目コード	5140060			時間数	30	
授業科目名	地理と地誌II - 自然地理学入門 -		開講学期等	1期	時間割	1期 火3・4
授業科目名英字	Regional Geography II: Introducing Physical Geography					
備考				授業の形式	講義	必修・選択
				受講対象学生	全学部 1～4年	
内容的に密接に関係する授業科目	地理と地誌I - 地誌学入門 -			履修する際に前提とする授業科目		
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】
林 武司	教育文化・文化環境講座	教文3-333	389-2664			
オフィスアワー	【曜日及び時間】	火曜日5・6時限		【場所】	教育文化学部3号館333室	
授業の目的			授業の到達目標			
<p>大学で学ぶ自然地理学は、人間の主たる活動の場である地球表層を対象として、その空間（ローカル～グローバルスケール）を構成する様々な自然・人為要素の特性や関係性を明らかにしていく総合的・学際的な学問領域である。本授業では、地球表層の自然環境の成り立ちや相互関係、人間活動との関わり（災害や環境問題、資源・エネルギー問題など）について基礎的な知識を習得することで、地域社会とグローバル社会の関係性を理解することを目的とする。</p>			<p>自然環境に関する基礎的な知識を学ぶことで、</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な環境問題や資源・エネルギー問題の本質（何が問題なのか）を考えられるようになる。 環境リテラシーの基礎を身につけ、科学的・社会的な根拠に基づいた判断基準を持てる。 環境倫理・環境正義に関する自分の意見を持てるようになる。 			
カリキュラム上の位置付け	地域社会とグローバル社会の関連性を自然地理学の観点から学習する。					
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>授業の概要 本授業では、地球表層を地圏、気圏、水圏の3つの領域に分け、それぞれの領域について、自然環境の成り立ちや仕組み、人間活動に伴う変化について学習する。</p> <p>進行予定</p> <ol style="list-style-type: none"> 導入：大学で自然地理学を学ぶことの意味を確認する（第1～2回） ・人間の活動基盤であり最大の資源である地球の大きさや形状について理解する。 地圏の環境：人間の生活の基盤である地圏の特性について理解する（第3～6回） ・地球の構造と活動の仕組み、地球の活動と地形の成り立ち。 ・人間活動との関わり：災害、資源・エネルギー問題。 気圏の環境：地球を覆っている気圏の特性について理解する（第7～10回） ・気圏の階層構造と大気循環、テレコミュニケーション、気候変動。 ・人間活動との関わり：大気汚染、酸性雨、地球温暖化。 水圏の環境：地球の自然環境を特徴づけている水圏の特性について理解する（第11～14回） ・水の物理的・化学的的特性、地球上の水の存在量と循環速度。 ・人間活動との関わり：資源としての水、バーチャルウォーター、ウォーターフットプリント。 まとめ（第15回） ・自然地理学から見た地域社会とグローバル社会。 ・環境リテラシー、環境倫理、環境正義。 					
授業に関連するキーワード	自然環境	環境問題	環境倫理	環境正義	環境	
成績評価の方法	小テスト（60%）、期末試験（40%） 小テスト：単元ごとに実施（4×15%）、期末試験（40%）					
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	授業中に適宜紹介する。					
自由記述欄						

科目コード	5140080			時間数	15		
授業科目名	秋田の歴史A - 城下町を歩く -			開講学期等	1期前半		
授業科目名英字	Regional History of Akita in Edo Period						
備考	授業の形式			講義・実習・学生	必修・選択	選択	
	受講対象学生			全学部 1～4年			
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目						
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
渡辺英夫	教育文化学部	教文3-336	2667				
オフィスアワー	【曜日及び時間】 月～金 16時以降			【場所】	研究室		
授業の目的				授業の到達目標			
土地に刻まれた歴史を読み取る。				城下町久保田(秋田)でのフィールドワークに基づき、他の近世都市・城下町の成り立ちについても考察できるように、その能力を養成する。			
カリキュラム上の位置付け	日本近世史を専門的に研究していくための導入ではない。日本の歴史に関心を持つ一般の学生を対象にして、いま目の前に現存している街の姿から、その都市の歴史を考察していく能力を養い、地域の歴史により一層の関心を深めて貰いたい。						
授業の概要と進行予定及び進め方	1. 近世都市を考えることの意味 2. 近世都市の構造 その1 戦国から平和へ 3. 近世都市の構造 その2 城下町と街道 4. 近世都市の構造 その3 城下町と水運 5. 近世都市の構造 その4 城下町と身分 6～7. フィールドワーク 8. レポート提出 討論						
授業に関連するキーワード	城下町 歴史の視点	近世都市 フィールドワーク	地域の歴史				
成績評価の方法	フィールドワークへの出席が絶対の前提条件です。その上で、学習態度・意欲(10%)、フィールドワーク(40%)、レポート(25%)、出席状況(25%)の割合で判定します。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	教科書	『塩谷順耳他』		秋田県の歴史	山川出版社	2001年	
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5140081			時間数	15		
授業科目名	秋田の歴史 B - 城下町を歩く -			開講学期等	1期後半		
授業科目名英字	Regional History of Akita in Edo Period						
備考	授業の形式			講義・実習・学生	必修・選択		選択
	受講対象学生			全学部 1～4年			
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目						
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
渡辺英夫	教育文化学部	教文3-336	2667				
オフィスアワー	【曜日及び時間】 月～金 16時以降			【場所】	研究室		
授業の目的				授業の到達目標			
土地に刻まれた歴史を読み取る。				城下町久保田(秋田)でのフィールドワークに基づき、他の近世都市・城下町の成り立ちについても考察できるよう、その能力を養成する。			
カリキュラム上の位置付け	日本近世史を専門的に研究していくための導入ではない。日本の歴史に関心を持つ一般の学生を対象にして、いま目の前に現存している街の姿から、その都市の歴史を考察していく能力を養い、地域の歴史により一層の関心を深めて貰いたい。						
授業の概要と進行予定及び進め方	1. 近世都市を考えることの意味 2. 近世都市の構造 その1 戦国から平和へ 3. 近世都市の構造 その2 城下町と街道 4. 近世都市の構造 その3 城下町と水運 5. 近世都市の構造 その4 城下町と身分 6～7. フィールドワーク 8. レポート提出 討論						
授業に関連するキーワード	城下町 歴史の視点	近世都市 フィールドワーク	地域の歴史				
成績評価の方法	フィールドワークへの出席が絶対の前提条件です。その上で、学習態度・意欲(10%)、フィールドワーク(40%)、レポート(25%)、出席状況(25%)の割合で判定します。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	教科書	『秋田県の歴史』		臨谷順耳他	山川出版社	2001年	
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5140130			時間数	15		
授業科目名	秋田戦略学III	開講学期等	1期後半	時間割	1期後半 木		
授業科目名英字	Strategic Approach to Akita Issue III						
備考	秋田カレッジプラザで開講（遠隔授業） 遠隔受講システムを活用して、手形キャンパスからも受講できます。開講時間：18:00～		授業の形式	講義・学生参加型	必修・選択	選択	
			受講対象学生	全学部 1年			
内容的に密接に関係する授業科目	秋田戦略学		履修する際に前提とする授業科目	特になし			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
教育推進主管	教育推進総合センター	(教育推進課)	018-889-3193				
オフィスアワー	【曜日及び時間】		【場所】				
	授業の目的			授業の到達目標			
	<p>「秋田戦略学」は、秋田の高等教育機関に所属する研究者が連携し、地域ならではの課題を学術的な研究や調査に基づいて考察するものです。秋田という地域が抱える課題を発見し、それぞれの課題解決の方策や展望について教員と学生がともに考えていきます。特にこの授業では、課題解決へのアプローチを特定の学問分野に限定せず、理系・文系という二分法を乗り越えて様々な観点から考察することを特徴としています。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・地域が抱えている課題の構造を図や表を用いて表現することができる。 ・地域が抱えている課題の今後の展望について、自分なりの考えを文章にすることができる。 ・秋田という地域が発展していくための作戦を述べることができる。 			
カリキュラム上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ・教養教育科目、主題別科目。 ・単位互換科目として、県内の他大学の学生も受講する。 ・大学コンソーシアムあきたの高大連携授業科目として、高校生も受講する。 						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>「高齢化社会とバリアフリー」では、秋田県の高齢化という点について考えてみます。全国的に高齢化が進んでいる中で、秋田県の高齢化率は全国でもトップクラス、つまり最先端を走っています。これから迫ってくる高齢化社会を見据えて、社会システムのあり方、暮らしやすい町、地域のあり方などを、秋田から提案していくことができるのでしょうか。若い皆さんにもぜひ考えてもらいたいテーマです。多彩な専門分野の講師陣と、バリアフリーという観点から社会を考えてみませんか？</p> <p>科目コーディネーター 大友和夫（秋田大学医学部・教授）</p> <p>授業内容 (順番は仮のもので、第1回の際にお知らせします)</p> <p>第1回 授業の総論 第2回 バリアフリーはだれのため 第3回 障がい理解 第4回 高齢者のバリアフリーと住宅改造 第5回 車いすのビューティフルデザイン 第6回 高齢者・障がい者と医用福祉工学 第7回 高齢者の理解 第8回 高齢社会である秋田の現状と課題、今後の課題</p> <p>授業形態 ・各回で採用する授業方法は主に講義形式で、これに学生による調査、討議、報告等も加えていきます。 ・複数の機関の教員で授業を担当します。(担当予定教員の所属……秋田公立美術工芸短期大学、日本赤十字秋田短期大学、秋田大学)</p> <p>授業方針と留意点 教員からの一方向の情報提供にとどまらず、教員と学生、学生間での議論や対話を重要視します。学生の皆さんに身近なテーマを取り上げる予定ですので積極的に参加してください。</p>						
授業に関連するキーワード	秋田	車いす	高齢化社会	地域医療	バリアフリー	デザイン	
成績評価の方法	・各回に、到達目標に応じた小レポートを課します。また最終試験としてレポートを課す予定です。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】		
教科書・参考書等に関する記述欄	・教科書……指定しません。・参考書……各回に紹介します。						
自由記述欄							

授業科目名			受講対象学生の 課程・選修	科目コード
和文：応用言語学Ⅰ			教育文化学部	
英文：Applied Linguistics I			学校教育課程	6040750
単位	時間割	授業の形式	国際言語文化課程	6330720
2	前期・水曜日・1, 2時限(秋田大学) (第2回目以降は課外も行います 19:00 ~20:00 カレッジプラザ)	演習		
担当教官名・所属・室番号・学内電話		担当教官名・所属・室番号・学内電話	オフィスアワー(場所, 時間帯)	
佐々木雅子・教科教育学 3-249・2638			月曜日(3-249, 10:30-12:30)	
履修する際に前提とする授業科目名		なし		
内容的に密接に関連する授業科目名		(できるだけ)後期の「第二言語習得論Ⅰ」と合わせて履修してください。		
授業の目標	1) To understand what “communicative language ability” is (knowledge) 2) To understand how important interaction is in language learning (knowledge) 3) To understand “communication-oriented approach” (knowledge) 4) To do interactive language activities (skill) 5) To reflect on your own language learning (skill, interest)			
授業の概要 と進行予定 及び進め方	第1回(4/13) Introduction 第2回(4/20) What is “communicative language ability”? 第3回(4/27) How important is interaction in language learning? Is “communication-oriented approach” effective? 第4, 5, 6, 7, 8回 (5/11, 5/18, 5/25, 6/1, 6/8) Part 1 1) Weekly Debriefing 2) Doing interactive language activities 3) Reflect on your own language learning 第9回(6/15) Mid-term Presentation 第10, 11, 12, 13回 (6/22, 6/29, 7/6, 7/13) Part 2 1) Weekly Debriefing 2) Doing interactive language activities 3) Reflect on your own language learning 第14回(7/20) Term-end Presentation 第15回(7/27) Conclusion			
教科書	Relevant materials to be used			
参考書等	・「オーラル・コミュニケーションの理論と実践」幸野稔・佐々木雅子他著 三修社 ・Ingram, D.E., Kono, M., O'Neill, S., & Sasaki, M. (2008). Fostering Positive Cross-Cultural Attitudes through Language Teaching. Maleny, QLD, Australia: Post Pressed.			
授業関連 キーワード	communicative language ability, Interaction(Negotiation of meaning), communication-oriented approach, language learning, reflection			
成績評価の 方法	授業への取り組み(20%), 課題への取り組み(30%) プレゼンテーション(30%), レポート(20%) 欠席(未提出)が5回に達した時点で履修放棄とみなす。			
備考	* TOEFL ITPを4月と7月に受けます(3,260円/回×2回=6,520円)			※整理番号
	* Make the most of this course to improve your English ability, * Think over what sort of language learning is effective.			